

YAMAHA Electone
ELX-1
OWNER'S MANUAL

取扱説明書

はじめに

このたびは、ヤマハエレクトーンELX-1をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

ELX-1は、長年にわたって培ってきたノウハウと最新の電子テクノロジーの粋を集めて完成されたエレクトーンです。

ほとんどの機能は、体系的でわかりやすいLCDディスプレイを通して操作／設定されます。

ELX-1のバラエティあふれる機能のすべてを使って演奏をお楽しみいただくために、是非この取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。

また、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

いったん電源を切って、次に電源を入れる際は、基本レジストレーションの1の音色になります。電源を切る前に、選んだ音色をレジストレーションメモリーボタンに記憶させておきましょう。

ご使用上の注意 (I)



必ず、AC100Vのコンセントから電源を。

大型クーラーやセントラルヒーティングの電圧は、AC(交流)200Vのものががあります。誤って接続すると大変危険ですので、充分ご注意ください。



電源プラグの扱いに注意。

ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持って抜いてください。



エレクトーン内部には、絶対ふれないで。

エレクトーンの改造や部品の取りはずしは、大変危険ですので、絶対におやめください。故障だと思われる場合はサービスセンターまでご連絡ください。



内部に水が入った場合は。

誤って水などをかけ、エレクトーンの内部に入ってしまった場合は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた上でサービスセンターまでご連絡ください。



電源スイッチを切り忘れないように。

電源が入ったまま長時間放置すると、思わぬ故障の原因になることがありますので、使用後は必ず電源スイッチを切ってください。

音を楽しむエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

ELX-1各部の名称 2

- 操作パネル 2
- LCDディスプレイ/ディスプレイセレクト 4
- その他 4

ELX-1の主な特徴 5

ELX-1操作の基本 6

音色体系 8

1 ELX-1ベーシックガイド 10

- 1 演奏までの準備 10
- 2 基本レジストレーションを使う 11
- 3 LCDディスプレイを活用する 12

2 ボイスセクション 32

- 1 パネルで音色を選ぶ 32
- 2 ドットボタンで音色を選ぶ 36
- 3 ボイスメニュー 38

3 フルートボイス(オルガンサウンド) 41

- 1 フルートボイスを創る 41
- 2 創ったフルートボイスを保存する 43
- 3 プリセットボイスや保存したフルートボイスを使う 44

4 コントロールとエフェクト 45

- 1 ボイスコンディションページで設定するもの 46
 - (1) タッチトーン 49
 - (2) フィート 49
 - (3) バン 50
 - (4) ブリリアンス 50
 - (5) シンフォニック/セレステ 50
 - (6) ディレイ 51
 - (7) フランジャー 51
 - (8) ディストーション 52
 - (9) ビブラート 52
 - (10) リードスライド 53
 - (11) リードチューン 53
- 2 エフェクトセットページで設定するもの 54
 - (12) ダイナミックレンジエンハンサー 54
- 3 パネルボタンで設定するもの 55
 - (13) リバーブ 55
 - (14) サステイン 57
 - (15) トレモロ/コーラス 57

5 リズムとアカンパニメント 60

- 1 パネルでリズムを選ぶ 60
- 2 リズムコンディションを設定する 63
- 3 ドットボタンでリズムを選ぶ 65
- 4 リズムメニュー 66
- 5 オートベースコード(A.B.C.) 68
- 6 アカンパニメント 70
- 7 プリセット/ユーザーキーボードパーカッション 72
- 8 メロディオンコード(M.O.C.) 80

6 レジストレーションメモリー 81

- 1 レジストレーションを記録する 81
- 2 レジストレーションを呼び出す 82
- 3 記録したレジストレーションをフロッピーディスクに保存する 82
- 4 レジストレーションシフト 83

7 ミュージックディスクレコーダー(MDR) 88

- 1 MDRのご使用の前に 88
- 2 ディスクをフォーマットする 89
- 3 録音する 90
- 4 レジストレーションなどのデータだけを記録する 95
- 5 レジストレーションなどのデータを呼び出す 96
- 6 レジストレーションだけを入れ替える 97
- 7 再生する 97
- 8 その他の機能 100

8 ボイスエディット 106

- 1 音色をエディットする 106
- 2 エディットした音色を保存する 111
- 3 保存した音色を呼び出す 113
- 4 ボイスエディットを終了する 113
- 5 別売のボイスディスクから音色を呼び出す 114
- 6 ボイスエディットの基礎 115

9 リズムプログラム 121

- リズムプログラム操作の概要 121
- 1 リズムパターンプログラム 121
 - (1) リズムパターンプログラムを始める 122
 - (2) リズムパターンプログラムに使用できる打楽器 123
 - (3) ステップライトとリアルタイムライト 124
 - (4) ステップライトかリアルタイムライトを選ぶ 124
 - (5) ビート/クオンタイズを設定する 124
 - (6) 打楽器を入力する 125
 - (7) ステップライトでのエディット 125
 - (8) リアルタイムライトでのエディット 129
 - (9) リズムのアカンパニメントパターンを選ぶ 130
 - (10) リズムパターンを保存する 131
 - (11) リズムパターンプログラムを終了する 133
 - (12) 保存したユーザーリズムを呼び出す 133
- 2 リズムシーケンスプログラム 134
 - (1) リズムシーケンス機能呼び出す 134
 - (2) リズムシーケンスをプログラムする 135
 - (3) リズムシーケンスプログラムを終了する 139
 - (4) リズムシーケンスを再生する 139
 - (5) すべてのシーケンスを順番に再生させる 140

10 フットスイッチ/ニーレバー/エクスプレッションペダル 142

- 1 フットスイッチ 142
- 2 ニーレバー 144
- 3 エクスプレッションペダル 146

11 トランスポーズ/ピッチ 148

12 MIDIコントロール 149

13 その他のコントロールと付属端子 151

こんなときは(故障だと思える前に) 154

索引 157

ELX-1仕様 163

MIDIコード一覧 165

FMオペレーター活用リスト 170

1 ELX-1 ベーシックガイド

2 ボイスセクション

3 フルートボイス (オルガンサウンド)

4 コントロールとエフェクト

5 リズムと アカンパニメント

6 レジストレーション メモリー

7 ミュージックディスク レコーダー(MDR)

8 ボイスエディット

9 リズムプログラム

10 フットスイッチ/ ニーレバー/ エクスプレッションペダル

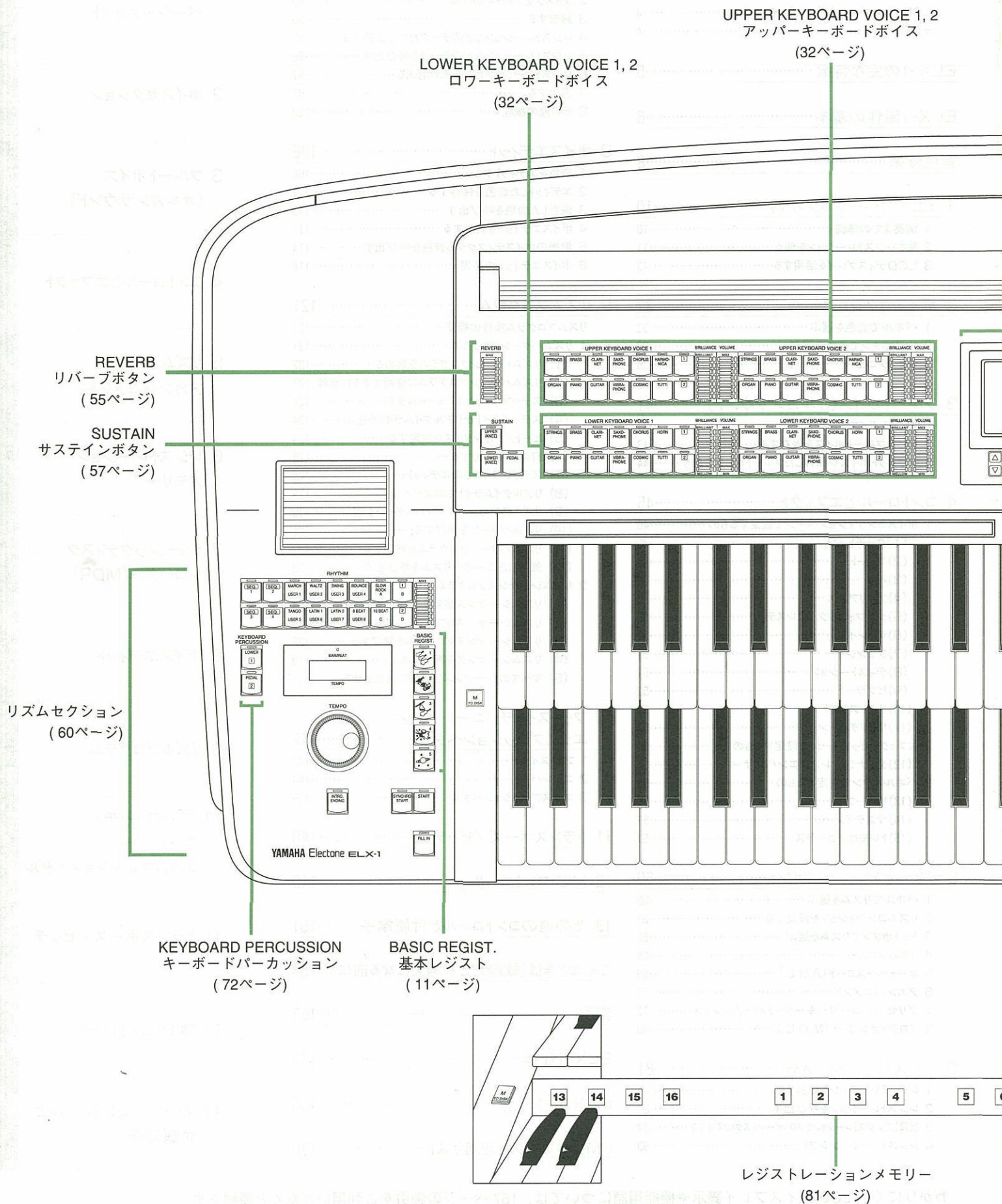
11 トランスポーズ/ピッチ

12 MIDIコントロール

13 その他のコントロールと 付属端子

ELX-1各部の名称

操作パネル



LCDディスプレイ
(30ページ)

DISPLAY SELECT
ディスプレイセレクト
(30ページ)

LEAD VOICE 1, 2
リードボイス
(32ページ)

PEDAL VOICE 1, 2
ペダルボイス
(32ページ)

モニタースピーカー
BAR
バー
(35ページ)

MASTER VOLUME
ボリューム (11ページ)

POWER
パワー (10ページ)

MUSIC DISK
RECORDER
ミュージックディスク
レコーダー
(88ページ)

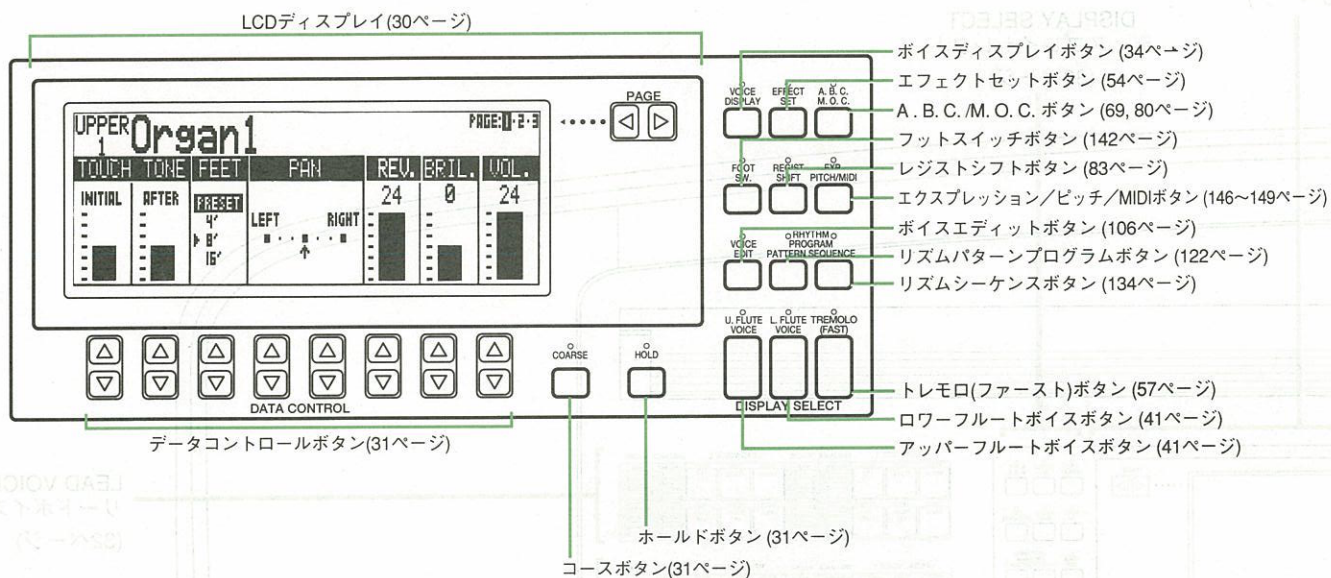
フロッピーディスク挿入口

イジェクトボタン
ユーザランプ

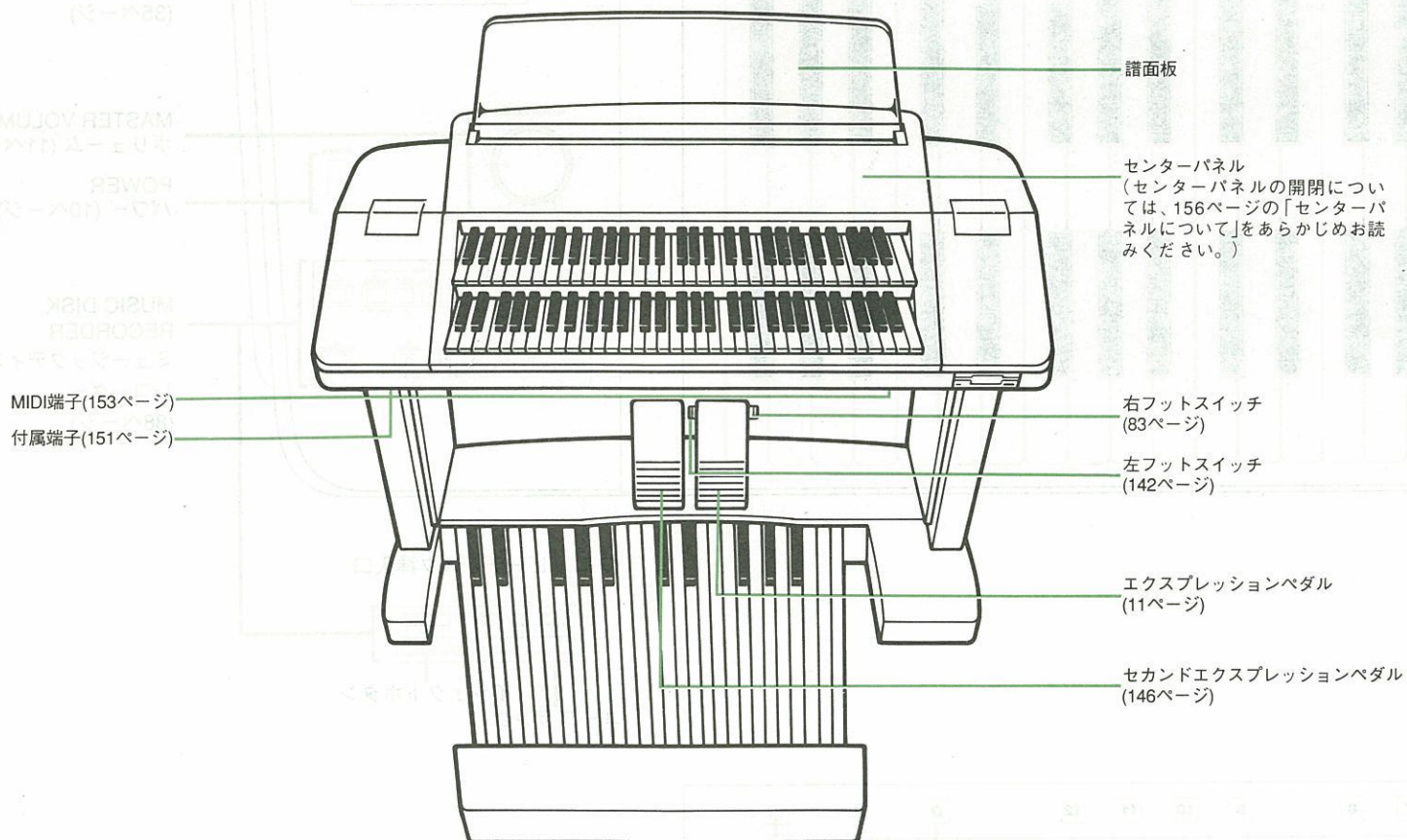
ペダルD.R.C (147ページ)

D(ディスプレイ)ボタン
(82ページ)

LCDディスプレイ/ディスプレイセレクト



その他



ELX-1の主な特徴

1 心の奥底まで表現できるリアルで多彩なサウンド

新AWMとFMの技術の粋を結集した最新の音源システムにより、本格的でよりリアルなサウンドが完成しました。そして、極限にまで高められたタッチレスポンス機能により、個々の楽器の持つ微妙なニュアンス／感情表現までも可能になりました。全部で151音色にも及ぶ多彩な楽器音色の数々に加えて、ソロモード機能を使った演奏を、フルスケールの鍵盤でお楽しみください。(32ページ)

2 無限に広がるオルガンサウンド

充実したパネル音色に加えて、伝統的で重厚なクラシックオルガンから、洗練されたジャズオルガンやアグレッシブなロックオルガンまで、あなただけのオルガンサウンドが思いのままです。(41ページ)

3 音楽の幅を更に広げるボイスエディット機能

151種類の多彩なパネル音色をエディットして、それぞれの曲想に最もマッチしたオリジナル音色を創ることができます。音色の微調整からオリジナルサウンドまで、自在に楽しめます。(106ページ)



4 ダイナミックなリズムサウンド／プログラマブルパーカッションサウンド

パネル音色同様AWM音源による66種類もの多様なジャンルのリズムサウンドと、バラエティ豊かなアカンパニメントが、あなたの演奏をサポートします。(60ページ) キーボードパーカッションは、ユニークな和楽器も加え115種類と豊富で、しかも、すべての打楽器音はどの鍵盤にでもアサインできます。(72ページ) また、115種類の打楽器を使ってオリジナルのリズムパターンを創ったり、そのリズムをシーケンスさせたりすることができます。(121ページ)

5 ハイクオリティデジタルエフェクト

リバーブはもちろん、ディレイ／フランジャーに至るまで、すべて高品位なデジタルエフェクトが音群ごとに得られます。また、エフェクトのオン／オフに関係無くパン機能が働き、しかも、パンやリバーブは個々の打楽器ごとにかけることができます。(45ページ)

6 データの保存に便利なMDR機能

あなたの演奏を録音したり、レジストレーションデータを保存したり、ボイスディスクの音色を呼び出したり、簡単に便利なMDR機能が内蔵されています。(88ページ)

7 機能的／体系的で視認性に富んだLCDディスプレイ

すべての操作は、機能的／体系的でわかりやすいLCDディスプレイを中心に行います。ELX-1が初めての方でも、操作の内容を目で確認しながら作業を進めていきますので安心です。

ELX-1操作の基本

ELX-1の主な機能

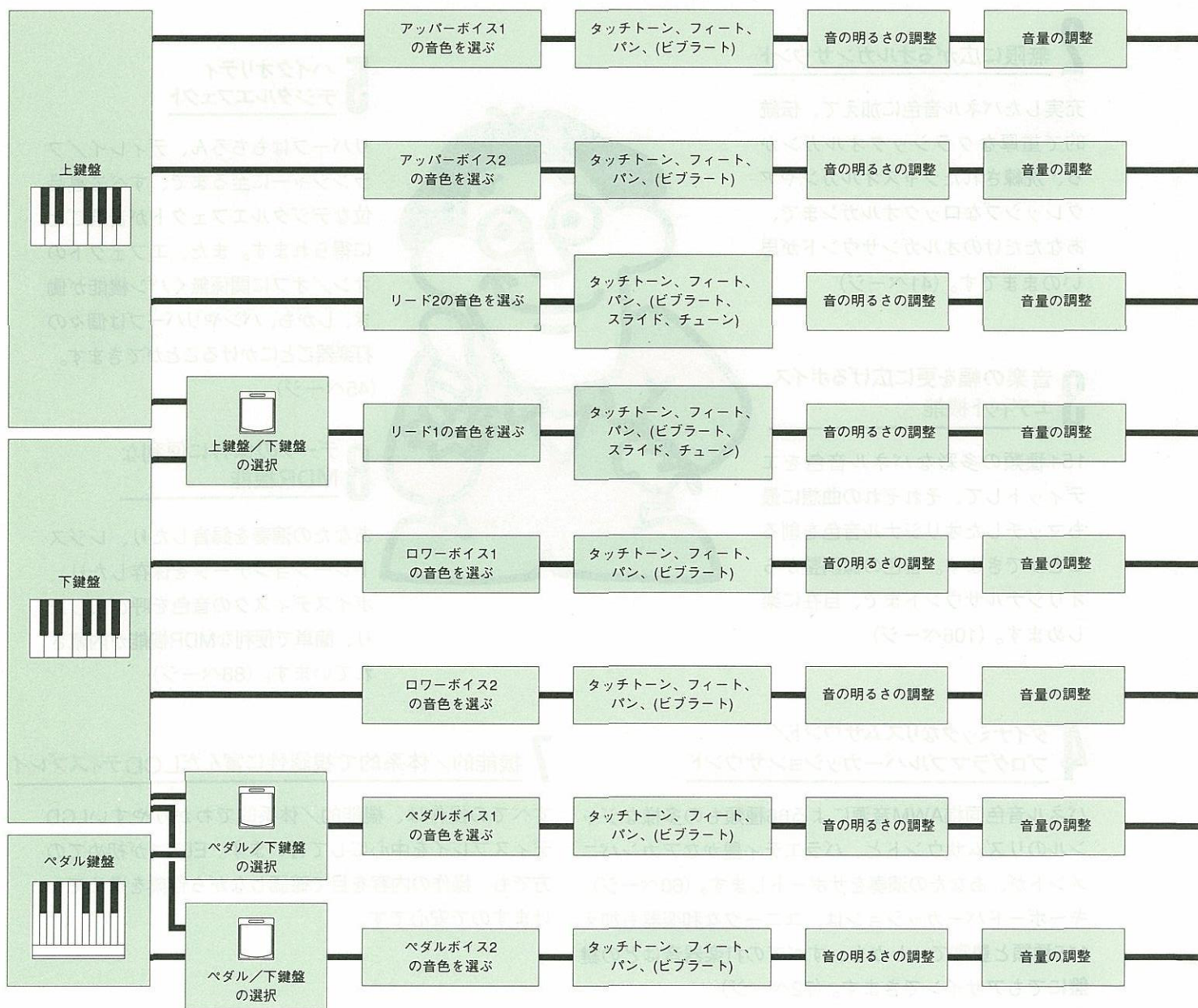
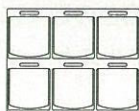
演奏する
鍵盤を選ぶ
(トゥーロー)

音色を選ぶ

音色を細かく
調整する
(ボイスコンディション)

音の明るさを
調整する
(プリリンス)

音量を
調整する
(ボリューム)



楽器の音は、楽器の構造や演奏者の演奏によって、大きく異なる。

エフェクターを選択して
音に変化を付ける
(ボイスコンディショニング/
エフェクトセット)

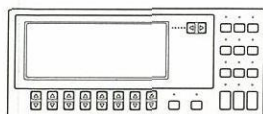
音の余韻を
調整する
(サステイン)

トレモロ
をかける
(トレモロ)

ホールや教会の様な
残響を付ける
(ボイスコンディショニング/
リバーブ)

全体の音量
を調整する
(マスター
ボリューム)

演奏に表情
を付ける
(エクスプレッション)



トレモロ、シンフォニック、
ディレイ、フランジャー、
ディストーション

トレモロ、シンフォニック、
ディレイ、フランジャー、
ディストーション

トレモロ、シンフォニック、
ディレイ、フランジャー、
ディストーション

トレモロ、シンフォニック、
ディレイ、フランジャー、
ディストーション

トレモロ、シンフォニック、
ディレイ、フランジャー、
ディストーション

トレモロ、シンフォニック、
ディレイ、フランジャー、
ディストーション

トレモロ、シンフォニック、
ディレイ、フランジャー、
ディストーション

トレモロ、シンフォニック、
ディレイ、フランジャー、
ディストーション

アッパーボイス1
アッパーボイス2
共通



ローボイス1
ローボイス2
共通



ペダルボイス1
ペダルボイス2
共通

トレモロ/
コーラスを
切替える



アッパーボイス1
の残響の調整

アッパーボイス2
の残響の調整

リード2の残響の調整

リード1の残響の調整

ローボイス1
の残響の調整

ローボイス2
の残響の調整

ペダルボイス1
の残響の調整

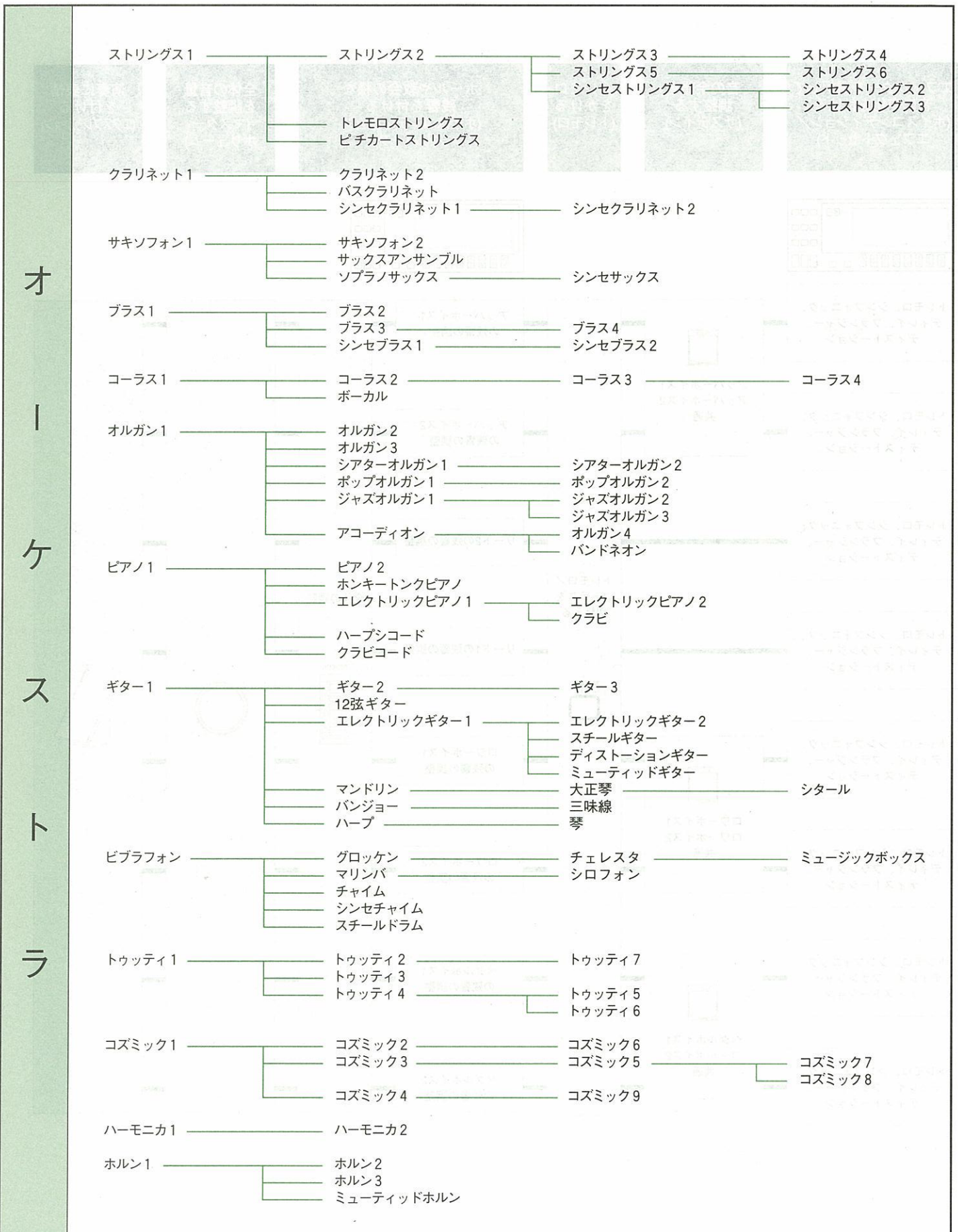
ペダルボイス2
の残響の調整

全体の調整

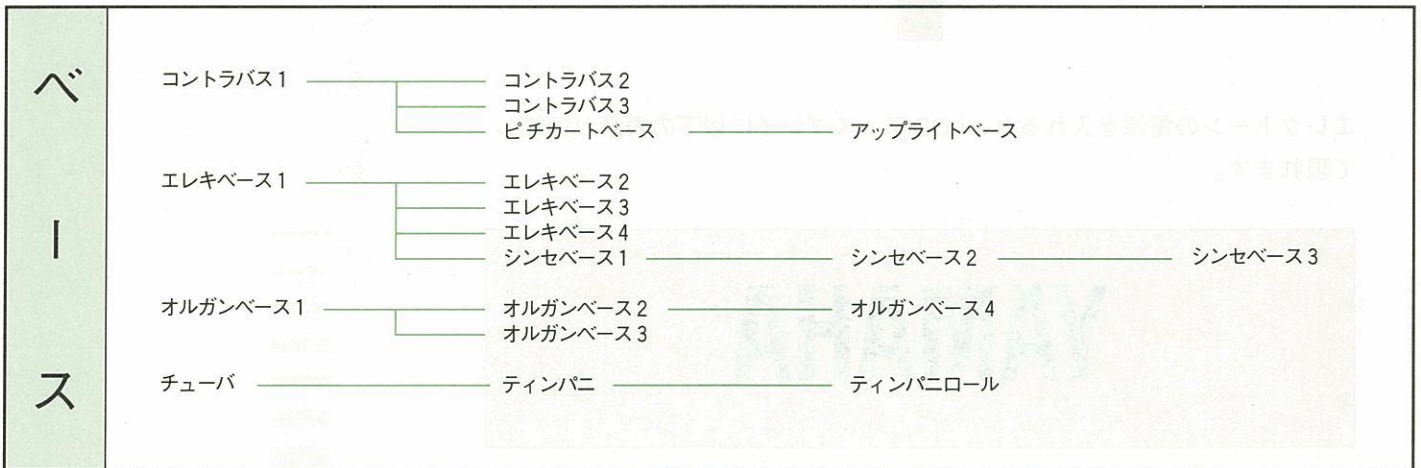
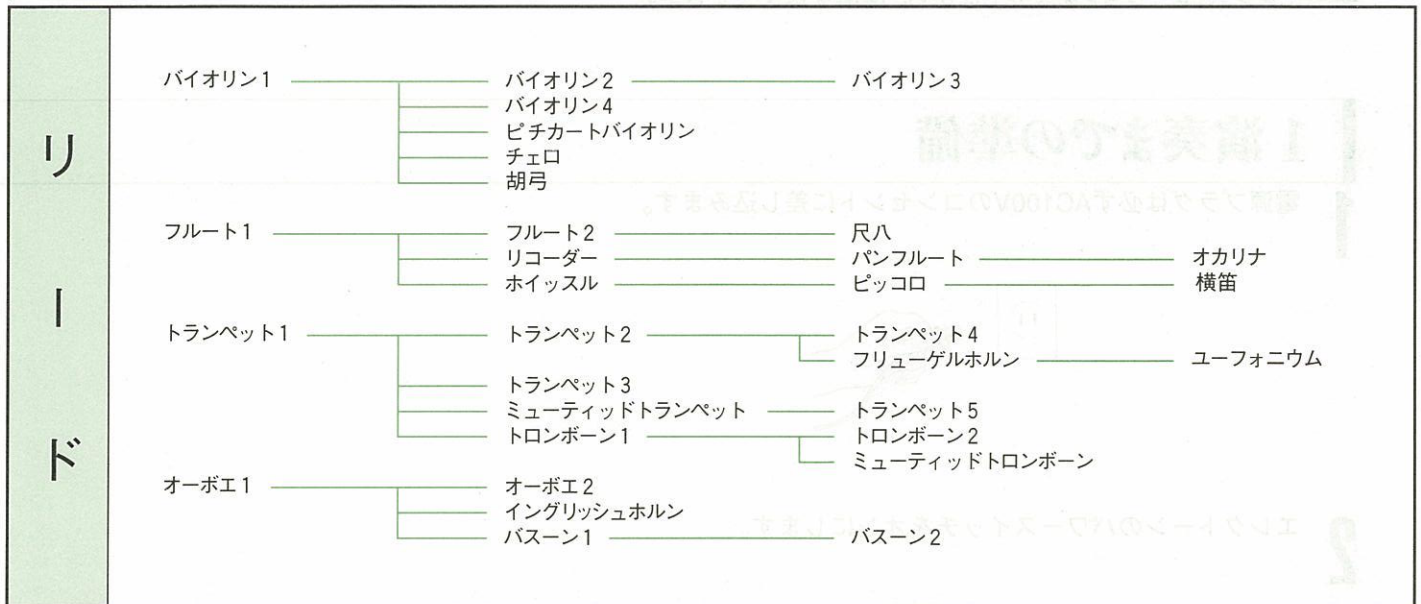


音色体系

ELX-1の音色はパネルの音色から下記のように分類されます。



この楽器は、本格的なサウンドを実現するための、最新のテクノロジーを採用しています。また、本格的なサウンドを実現するための、最新のテクノロジーを採用しています。



アッパー&ロワーフルートボイスのプリセット音色

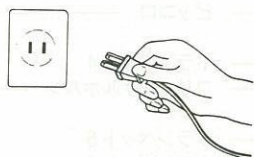
ジャズオルガン1	ジャズオルガン2	ジャズオルガン3	ジャズオルガン4
ポップオルガン1	ポップオルガン2	ポップオルガン3	ポップオルガン4

1 ELX-1 ベーシックガイド

この章では、ELX-1の基本的操作方法から、ELX-1の中心的役割を果たすLCDディスプレイの操作方法まで、実際にレジストレーションを設定しながら、理解を深めていきます。

1 演奏までの準備

- 1 電源プラグは必ずAC100Vのコンセントに差し込みます。



- 2 エレクトーンのパワースイッチをオンにします。

POWER



エレクトーンの電源を入れると、LCDディスプレイに以下の表示が連続して現れます。

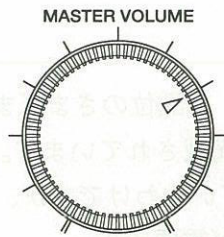
YAMAHA

Electone®

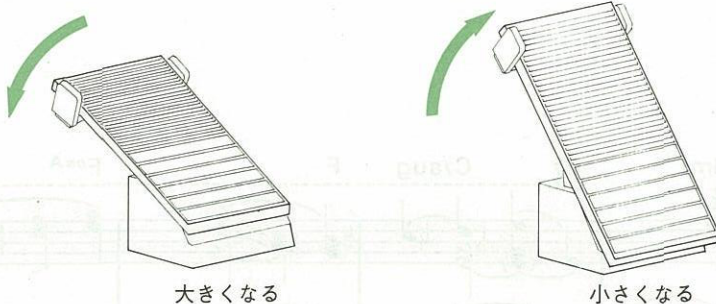
UPPER		LEAD1	
Strings1	Strings1	Violin1	
LOWER		LEAD2	
Piano1	Strings1	Violin1	
PEDALS			
Cont. Bass1	Cont. Bass1		UPPER
			LOWER

最後に表示された画面が、ボイスディスプレイです。各音群に現在設定されている音色名と、上鍵盤と下鍵盤の音量バランスを表示します。(ボイスディスプレイについては、34ページをご参照ください。)

- 3** マスターボリュームを設定します。
 マスターボリュームでは、エレクトーン全体の音量を調節します。



- 4** エクスプレッションペダルを右足で適度に踏み込みます。
 このペダルで、演奏しながら全体の音量を調節します。



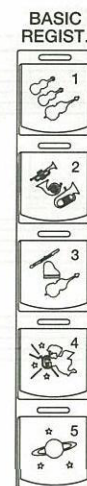
2 基本レジストレーションを使う

基本レジストレーション(BASIC REGIST.)には、5種類の基本的なレジストレーションがプリセットされています。この5種類のレジストレーションは、それぞれ幅広い音楽ジャンルの中の代表的なセッティングになっています。

基本レジストレーションを選ぶには

BASIC REGIST.(基本レジスト)セクションのボタンを押すだけで、それぞれの上鍵盤と下鍵盤とペダル鍵盤のレジストレーションが自動的に設定されます。
 エレクトーンの電源を入ると、必ず基本レジストの1が選択されます。

	基本 レジストレーション1	基本 レジストレーション2	基本 レジストレーション3	基本 レジストレーション4	基本 レジストレーション5
Upper Keyboard voice 1 上鍵盤	Strings 1 ストリングス1	Brass 1 ブラス1	Flute 1 フルート1	Cosmic 1 コズミック1	Synth. Brass 1 シンセブラス1
Lower Keyboard voice 1 下鍵盤	Strings 1 ストリングス1	Horn 1 ホルン1	Piano 1 ピアノ1	Cosmic 2 コズミック2	Cosmic 3 コズミック3
Pedal voice 1 ペダル鍵盤	Contra Bass 1 コントラバス1	Tuba チューバ	Contra Bass 1 コントラバス1	Cosmic 2 コズミック2	Synth. Bass 1 シンセベース1



ご注意

エレクトーンの電源を切ると、パネル上やLCD上で設定していたデータはすべて消去され、再び電源を入ると、自動的に基本レジストレーション1の設定が現れます。

データを消去したくない場合には、電源を切る前に必ずレジストレーションメモリーボタンに記録してください。(81ページをご参照ください。)

ただし、ある条件の下では、電源を切る前の状態に戻すことができます。

(電源を切る前の状態に戻すには、87ページをご参照ください。)

3 LCDディスプレイを活用する

ELX-1には、幅広いジャンルで種類も豊富な音色やリズム、高品位のさまざまなデジタルエフェクト類、そしてプログラム機能などバラエティあふれる機能が満載されています。

これから、ELX-1の機能を駆使しながら音楽の世界を広げていくわけですが、そのためにはELX-1の中枢を成すLCDディスプレイの使用法をマスターすることが重要です。

このセクションでは、3～5級程度のアレンジ譜『星に願いを』のレジストレーションを実際に創っていきながら、LCDディスプレイの操作方法の理解を深めていただきます。



星に願いを 作曲 Leigh Harline
編曲 鷹野雅史

(1) レジストレーションを設定する

演奏の前に、『星に願いを』で使用するレジストすべてを創ります。以下の説明にそって進めていきましょう。

レジスト 1

最初に、上鍵盤のUPPER KEYBOARD VOICE 1の音色を創ります。

1 UPPER KEYBOARD VOICE 1のレジストを創る: 使用音色 String 1(ストリングス1)

まず、音色を選択します。

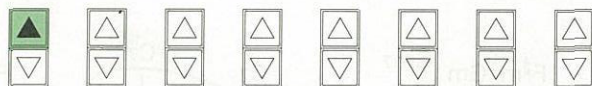
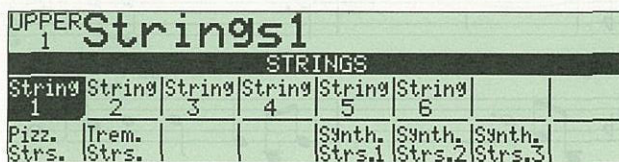
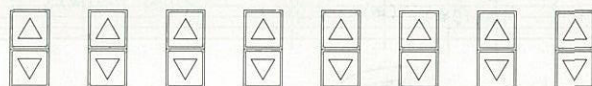
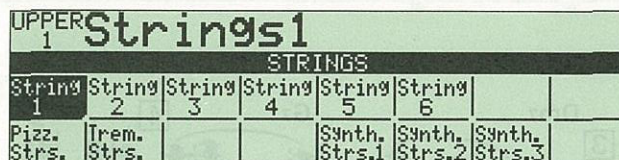
- 1 パネル上のUPPER KEYBOARD VOICE 1のSTRINGS(ストリングス)のボタンを押します。



LCDディスプレイ上にSTRINGSのボイスメニューが表示されます。

- 2 データコントロールボタンの中の、使用したいString1と同じ位置にあるボタンを押します。(電源を入れた状態では、String1が常に表示されていますのでこの操作は不要です。)

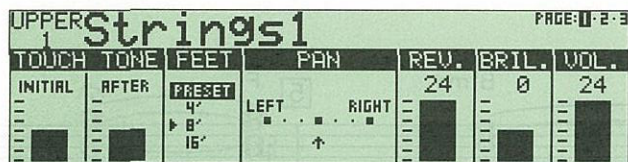
選択された音色はネガ(反転)表示になります。



音色を選択するには、このように、①パネル上の音色ボタンを押してLCD上にボイスメニューを表示させ、②LCD上で実際に使用したい音色を選択します。(ボイスメニューリストについては、38ページをご参照ください。)

つぎに、選択したString1のコンディションを設定します。

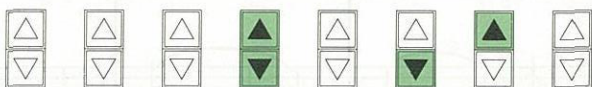
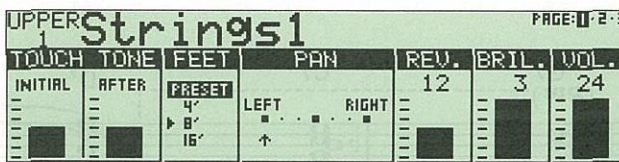
- 3 パネル上のSTRINGSのボタンを、もう一度押します。(または、String1を選択したときと同じデータコントロールボタンを、もう一度押します。)



LCDディスプレイ上に、ボイスコンディション画面の1ページめが現れます。

ボイスコンディション1ページめでは、タッチの強弱、フィート(オクターブ)、パン、リバーブ、ブリリアンスやボリュームファイン設定ができます。

String1のコンディションを設定します。データコントロールボタンを使って、イラストで示しているとおりに選択して、設定してください。

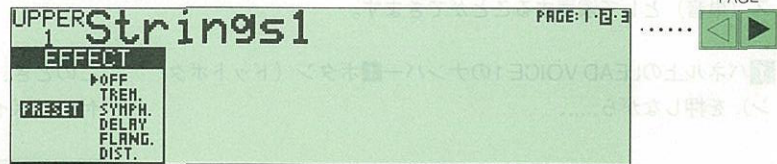


このボタンを押して、一番左にセットします
下のボタンを押して、12まで下げます
上のボタンを押して、最高にします

このようにデータコントロールボタンは、①音色や機能を選択したり、②ボリュームやレベルを上げ下げしたり、③フィートのように表示されているものから何かを選択したり、④パンのようにカーソルを左右／(上下)に動かして設定すること等ができます。

4 つぎに、LCDディスプレイの右側にあるPAGE(ページ)ボタン(▶)を押して、ボイスコンディションの2 ページめを表示させます。

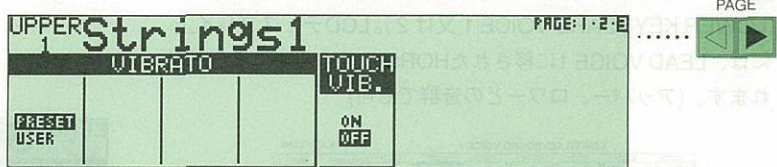
2ページでは、音群ごとに、トレモロ、シンフォニック、ディレイ、フランジャー、ディストーションといったエフェクトをかけ分けることができます。この場合は、プリセットのままです。



画面の右上にページ表示がある場合には、LCDディスプレイの右側のPAGE(ページ)ボタンを使って、次ページを選択することができます。

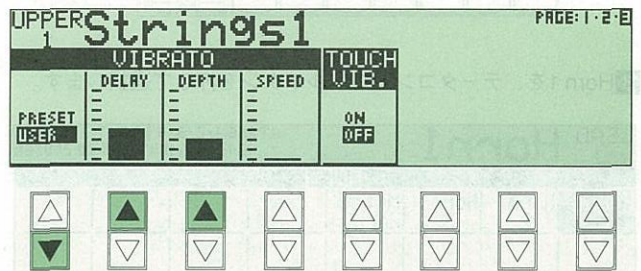
5さらにページボタンを使って、ボイスコンディ
ションの3ページめを表示させます。

3 ページでは、ビブラート(LEAD VOICEでは、ほかにリードスライドやチューンもあります)の設定を行います。現在、ビブラートは、プリセットに設定されています。



6 左端の下のデータコントロールボタン(▼)を押して、USER(ユーザー)を選択します。

USERを選択すると、その右側にビブラートのDELAY(ディレイ)DEPTH(デプス)SPEED(スピード)の表示が現れます。
データコントロールボタンを使って、ビブラートの各パラメータを設定してください。
DELAYを3にDEPTHを2に上げます。



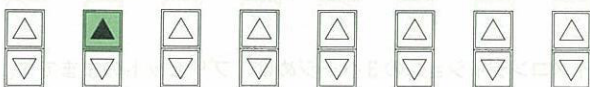
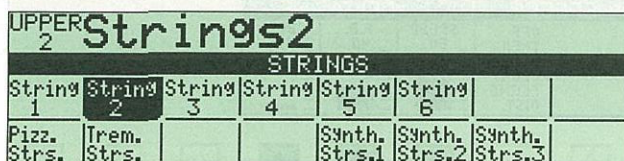
これでUPPER KEYBOARD VOICE 1の設定が終了しました。

ほかの音群の音色の選択／設定については、UPPER KEYBOARD VOICE 1で行った手順を参考にして、進めてください。

2 UPPER KEYBOARD VOICE 2のレジストを創る: 使用音色 String 2 (ストリングス2)

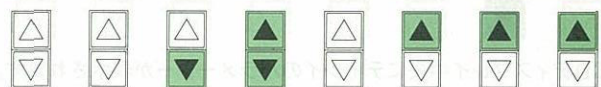
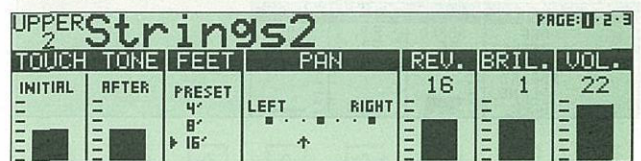
1 パネル上のUPPER KEYBOARD VOICE 2のSTRINGSのボタンを押します。

2 String 2を、データコントロールボタンを押して選択します。



3 パネル上のSTRINGSのボタン(または、String 2と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディショニング画面1ページを表示させます。

イラストに示してあるとおり、String 2 のコンディションを設定してください。



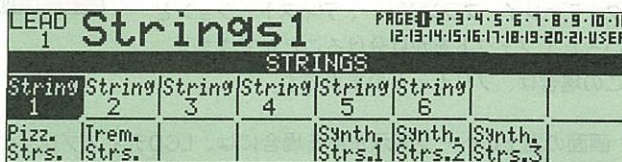
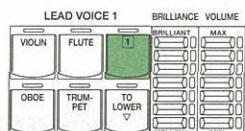
ボイスコンディションの2ページ、3ページめはプリセットのままですから、これでUPPER KEYBOARD VOICE 2の設定が終了しました。

3 LEAD VOICE 1のレジストを創る: 使用音色 Horn 1(ホルン1)

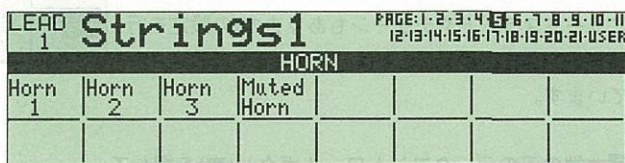
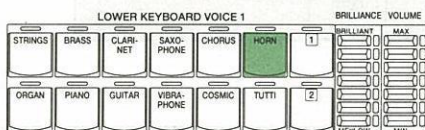
Horn 1はローボイス（複音）の音色ですがLEAD VOICE 1の音群中にある1ボタン（ドットボタン）を使用すれば、リードボイス（単音）として演奏することができます。

1 パネル上のLEAD VOICE 1のナンバー1ボタン（ドットボタン）を押しながら.....、

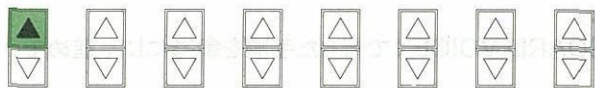
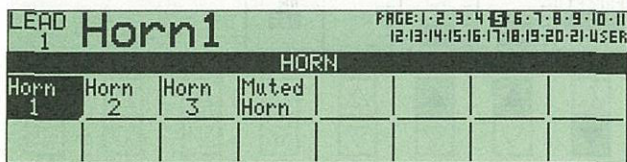
(このとき、LCDディスプレイには、右上にページナンバーの付いたボイスメニューが表示されます。)



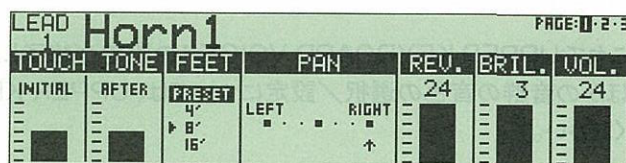
2 もう一方の指でパネル上のHORNの音色ボタンを押します (LOWER KEYBOARD VOICE 1 又は 2)。LCDディスプレイ上には、LEAD VOICE 1に移されたHORNのボイスメニューが現れます。(アッパー、ローワど音群でも可)



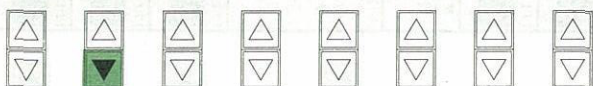
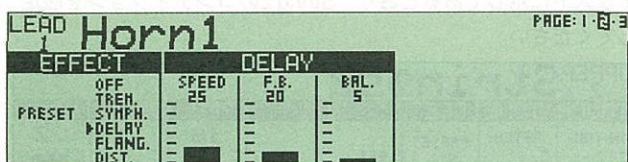
3 Horn 1を、データコントロールボタンを押して選択します。



4 パネル上の1のボタン(または、Horn 1と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面1ページを表示させます。イラストに示してあるとおり、Horn 1のコンディションを設定してください。

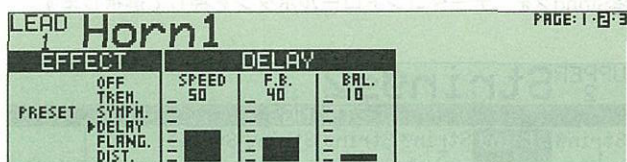


5 つぎに、ページボタンを使って、ボイスコンディション2ページめを表示させ、エフェクトの中からディレイを選択します。



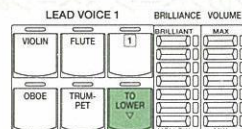
LCDディスプレイ中央にディレイのパラメーターが表示されます。

6 ディレイのSPEED(スピード)、F.B.(フィードバック)、BAL.(バランス)を、データコントロールボタンでそれぞれ50、40、10に設定します。



ボイスコンディションの3ページめは、プリセットのままです。

7 これでLEAD VOICE 1の設定ができましたが、下鍵盤で使用するので、パネル上のこの音群の右下にあるTO LOWER(トゥーロー)ボタンを押します。



4 LEAD VOICE 2は使用しませんので、パネル上のLEAD VOICE 2の音量が0になっていることを確認してください。



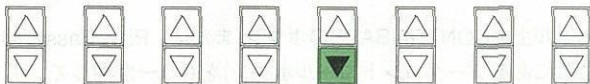
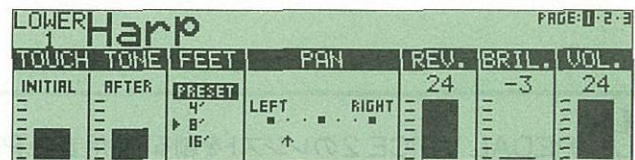
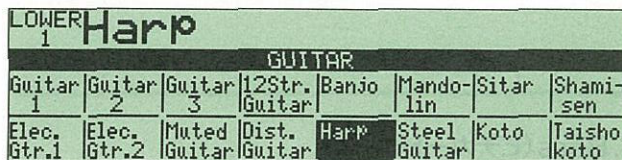
5 LOWER KEYBOARD VOICE 1のレジストを創る: 使用音色 Harp (ハーブ)

1 パネル上のLOWER KEYBOARD VOICE 1のGUITARのボタンを押します。

2 Harpを、データコントロールボタンを押して選択します。

3 パネル上のGUITARのボタン(または、Harpと同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面1ページを表示させます。

イラストに示してあるとおり、Harpのコンディションを設定してください。



ボイスコンディションの2ページ、3ページめはプリセットのままでから、これでLOWER KEYBOARD VOICE 1の設定が終了しました。

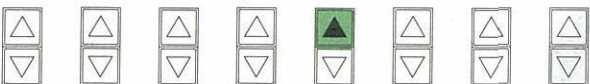
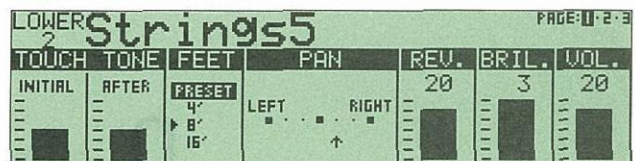
6 LOWER KEYBOARD VOICE 2のレジストを創る: 使用音色 String 5 (ストリングス5)

1 パネル上のLOWER KEYBOARD VOICE 2のSTRINGSのボタンを押します。

2 String 5を、データコントロールボタンを押して選択します。

3 パネル上のSTRINGSのボタン(または、String 5と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面1ページを表示させます。

イラストに示してあるとおり、String 5のコンディションを設定してください。

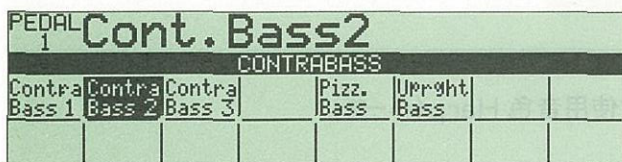


ボイスコンディションの2ページ、3ページめはプリセットのままでから、これでLOWER KEYBOARD VOICE 2の設定が終了しました。

7 PEDAL VOICE 1のレジストを創る: 使用音色 ContraBass 2(コントラバス2)

1 パネル上のPEDAL VOICE 1のCONTRA BASSのボタンを押します。

2 ContraBass 2を、データコントロールボタンを押して選択します。



3 パネル上のCONTRA BASSのボタン(または、Contra Bass2と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面1ページを表示させます。

イラストに示してあるとおり、ContraBass 2のコンディションを設定してください。



ボイスコンディションの2ページ、3ページめはプリセットのままですから、これでPEDAL VOICE 1の設定が終了しました。

8 PEDAL VOICE 2のレジストを創る: 使用音色 Pizz. Bass (ピチカートベース)

1 パネル上のPEDAL VOICE 2のCONTRA BASSのボタンを押します。

2 Pizz. Bassを、データコントロールボタンを押して選択します。



3 パネル上のCONTRA BASSのボタン(または、Pizz. Bassと同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面1ページを表示させます。

イラストに示してあるとおり、Pizz. Bassのコンディションを設定してください。



ボイスコンディションの2ページ、3ページめはプリセットのままですから、これでPEDAL VOICE 2の設定が終了しました。



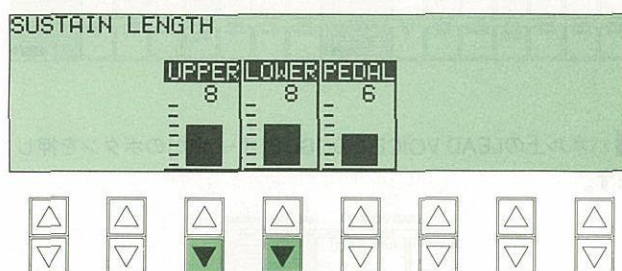
ここまでの操作で、上鍵盤からペダル鍵盤まですべての音群の設定ができました。さらに、このレジスト①全体にサステインとリバーブをかけることにしましょう。

1 レジスト①にサステインをかける:

1 パネル左端の3つのサステインボタン(UPPER、LOWER、PEDAL)をすべて押します。(サステインボタンのランプが点灯します)



2 サステインボタンを押したことにより、LCDディスプレイにはSUSTAIN LENGTH(サステインの長さ設定)ページが現れます。イラストに示してあるとおりに、データコントロールボタンを使って、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤それぞれのサステインの長さを設定してください。

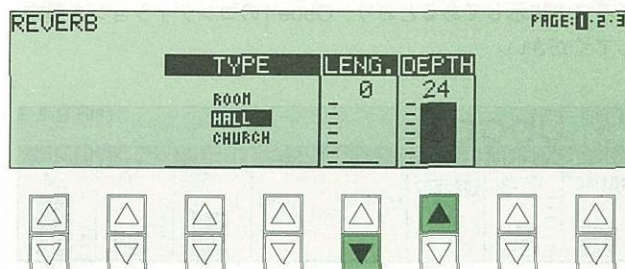


2 レジスト①にリバーブをかける:

パネル左端のリバーブボリュームを押します。リバーブボリュームを押すことによって、LCDディスプレイにREVERB(リバーブ)コントロール画面が表示されます。



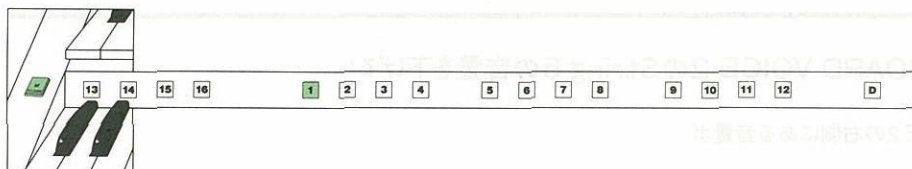
イラストに示してあるとおりに、リバーブを設定してください。(音群ごとにボイスコンディション1ページでリバーブの設定を行いました。ここでは楽器全体へのリバーブのかかり具合を設定します。)



これで、レジスト1の設定がすべて完了しましたので、レジストレーションメモリーボタンに記録します。

レジスト1をレジストレーションメモリー1に記録する:

上鍵盤と下鍵盤の間にあるレジストレーションメモリーセクションのM(メモリー)ボタンを押しながら、①のナンバーボタンを押します。



ナンバーボタンが一時的に点滅し、記録が完了したことを示します。

レジスト 2

レジスト 2 は、レジスト 1 の上鍵盤の音色のみを変えたものです。UPPER KEYBOARD VOICE 1、2は使用せず、LEAD VOICE2のみを使用します。

1 上鍵盤のレジストを創る: 使用音色LEAD VOICE2のみ(Oboe1(オーボエ1))

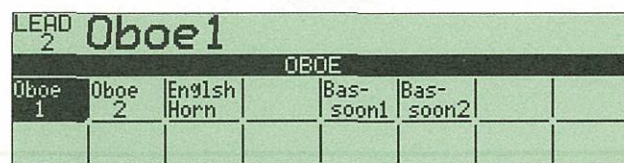
1 レジスト 1 のUPPER KEYBOARD VOICE 1と2の音量を、パネル上のボリュームボタンを使って0にします。



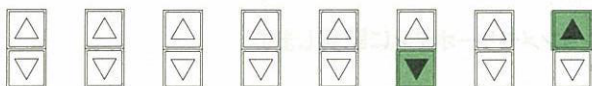
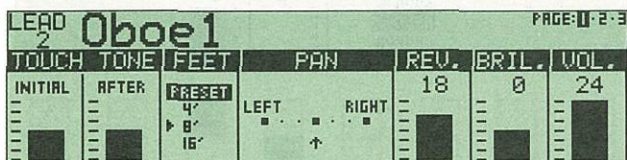
2 パネル上のLEAD VOICE 2のOBOE(オーボエ)のボタンを押します。



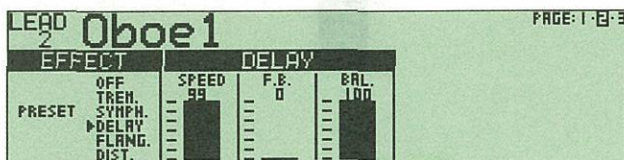
3 Oboe 1を、データコントロールボタンを押して選択します。



4 パネル上のOBOEのボタン(または、Oboe 1と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディショ画面1ページを表示させます。
イラストに示してあるとおり、Oboe 1のコンディションを設定してください。

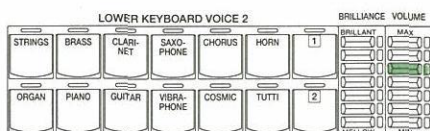


ボイスコンディションの3ページめは、プリセットのままです。
これで、オーボエがソロプレイを奏でる上鍵盤の設定ができました。



2 下鍵盤のLOWER KEYBOARD VOICE 2のString 5の音量を下げる:

パネル上のLOWER KEYBOARD VOICE 2の右側にある音量ボタンを押して一目盛りだけ下げます。

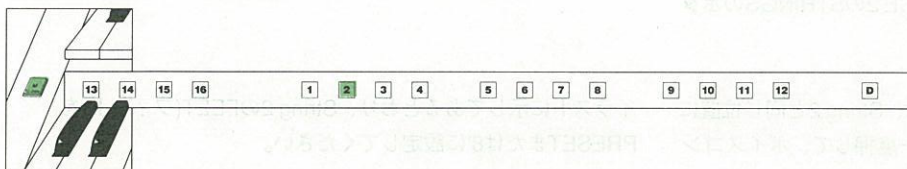


レジスト2の設定が完了しましたので、レジストレーションメモリーボタンに記録します。

レジスト2をレジストレーションメモリー2に記録する:

レジスト1同様に、Mボタンを押しながら、**[2]** のナンバーボタンを押します。

これで、レジスト2が設定されました。



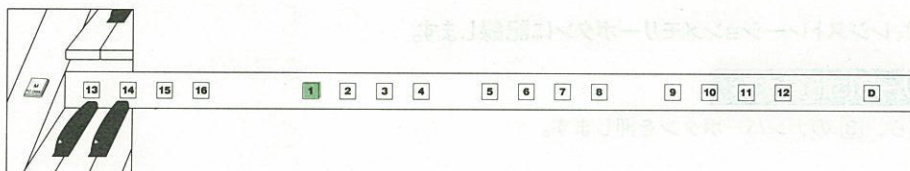
レジスト 3

レジスト3は、レジスト1のUPPER KEYBOARD VOICE 1、2のString 1とString 2のフィートをそれぞれ4'、8'に1オクターブ上げて、使用します。

1 レジスト1を呼び出す:

現在レジスト2が選択されていますので、作業の前にレジスト1を呼び出す必要があります。

レジストレーションのナンバーボタンの **[1]** を押して、レジスト1を呼び出します。



2 UPPER KEYBOARD VOICE 1のString 1を4'にする:

1 パネル上のUPPER KEYBOARD VOICE 1のSTRINGSのボタンを押します。

2 パネル上のSTRINGSのボタン(または、String1と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面1ページを表示させます。

イラストに示してあるとおり、String 1のFEET(フィート)を4'に設定してください。

UPPER Strings1							
STRINGS							
String 1	String 2	String 3	String 4	String 5	String 6		
Pizz. Strs.	Trem. Strs.			Synth. Strs.1	Synth. Strs.2	Synth. Strs.3	

UPPER Strings1							
PAGE: 1-2-3							
TOUCH	TOPE	FEET	PAN		REV.	BRIL.	VOL.
INITIAL	AFTER	PRESET	LEFT	RIGHT	12	3	24
		4'					
		8'					
		16'					



3 UPPER KEYBOARD VOICE 2のString 2を8'にする:

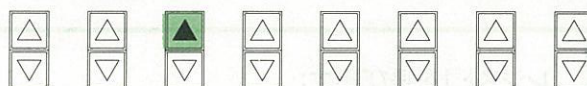
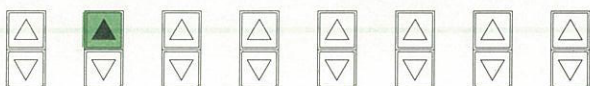
1 パネル上のUPPER KEYBOARD VOICE 2のSTRINGSのボタンを押します。

2 パネル上のSTRINGSのボタン(または、String 2と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディショニング画面1ページを表示させます。

イラストに示してあるとおり、String 2のFEET(フィート)をPRESETまたは8'に設定してください。

UPPER Strings2							
STRINGS							
String 1	String 2	String 3	String 4	String 5	String 6		
Pizz. Strs.	Trem. Strs.			Synth. Strs.1	Synth. Strs.2	Synth. Strs.3	

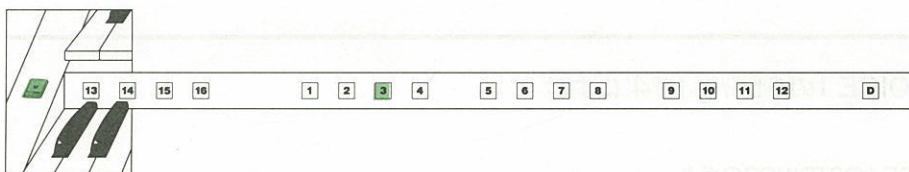
UPPER Strings2								PAGE: 11-2-3	
TOUCH	TONE	FEET	PAN		REV.	BRIL.	VOL.		
INITIAL	AFTER	PRESET	LEFT RIGHT		16	1	22		
		4' 8' 16'	↑						



レジスト3の設定が完了しましたので、レジストレーションメモリーボタンに記録します。

レジスト3をレジストレーションメモリー3に記録する:

レジスト1同様に、Mボタンを押しながら、[3]のナンバーボタンを押します。
これで、レジスト3が設定されました。

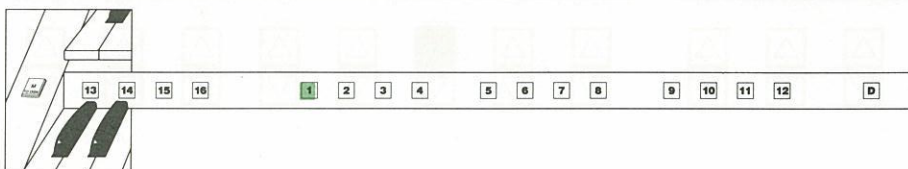


レジスト 4

レジスト4は、レジスト1のPEDAL VOICE 2を"Tutti 2(トゥッティ2)"に変えたものです。

1 レジスト1を呼び出す:

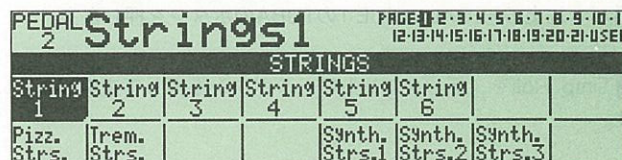
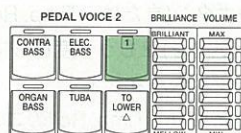
現在レジスト3が選択されていますので、作業の前にレジスト1を呼び出す必要があります。
レジストレーションのナンバーボタンの[1]を押して、レジスト1を呼び出します。



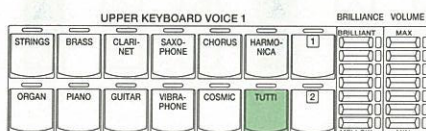
2 PEDAL VOICE 2のPizz. Bassを“Tutti 2(トゥッティ2)”に変える:

1 パネル上のPEDAL VOICE 2のナンバー 1 のボタン(ドットボタン)を押しながら.....、

(このとき、LCDディスプレイには、右上にページナンバーの付いたボイスメニューが表示されます。)

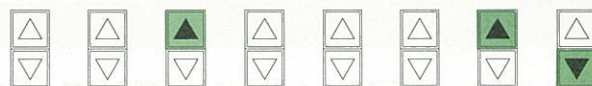
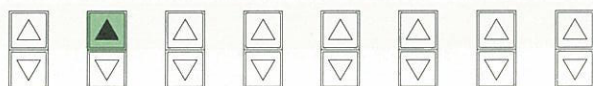
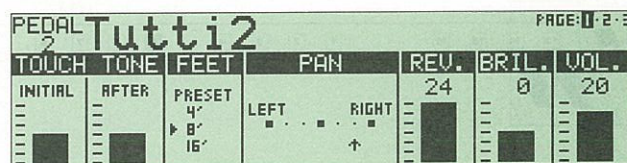


2 もう一方の指でパネル上のTUTTIの音色ボタンを押します。
(どの音群のTUTTIでも可)
LCDディスプレイ上には、PEDAL VOICE 2に移されたTUTTIのボイスメニューが現れます。



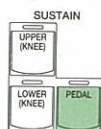
3 Tutti 2を、データコントロールボタンを押して選択します。

4 パネル上のナンバー 1 のボタン(または、Tutti 2と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面1ページを表示させます。
イラストに示してあるとおり、Tutti 2のコンディションを設定してください。



3 ペダルのサステインをオフにする:

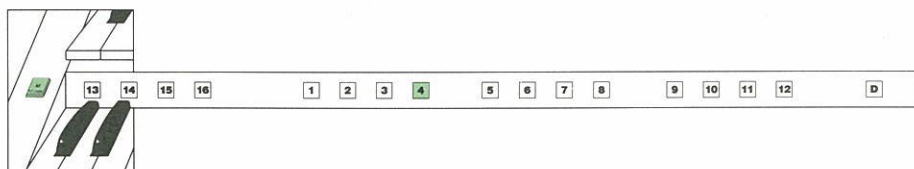
パネル左端のPEDAL(ペダル)サステインボタンを押してオフにします。



レジスト4の設定が完了しましたので、レジストレーションメモリーボタンに記録します。

レジスト4をレジストレーションメモリー4に記録する:

レジスト1同様に、Mボタンを押しながら、 4 のナンバーボタンを押します。
これで、レジスト4が設定されました。



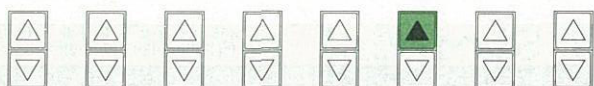
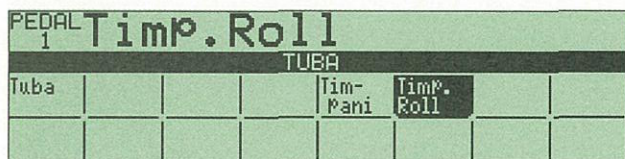
レジスト 5

レジスト 5 は、レジスト 4 の PEDAL VOICE 1 を "Timp. Roll(ティンパニロール)" に変えたものです。

PEDAL VOICE 1 のレジストを創る:

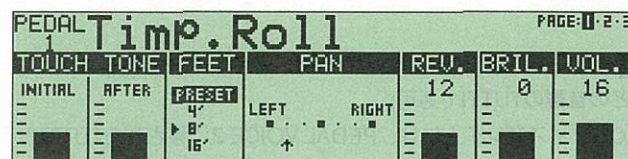
1 パネル上の PEDAL VOICE 1 の TUBA のボタンを押します。

2 Timp. Roll を、データコントロールボタンを押して選択します。



3 パネル上の TUBA のボタン(または、Timp. Roll と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面 1 ページを表示させます。

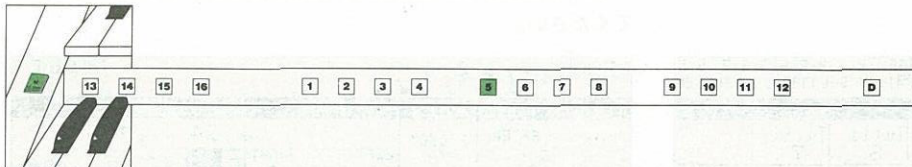
イラストに示してあるとおり、Timp. Roll のコンディションを設定してください。



レジスト 5 の設定が完了しましたので、レジストレーションメモリーボタンに記録します。

レジスト 5 をレジストレーションメモリー 5 に記録する:

レジスト 1 同様に、M ボタンを押しながら、5 のナンバーボタンを押します。
これで、レジスト 5 が設定されました。

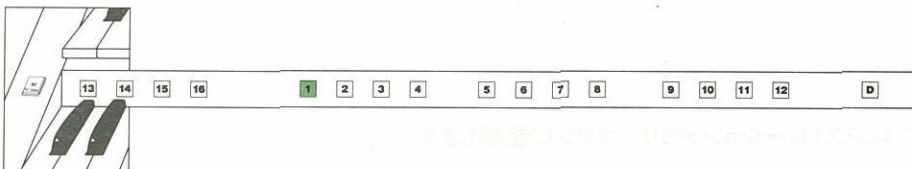


レジスト 6

レジスト 6 も、レジスト 1 をもとにして創られています。

1 レジスト 1 を呼び出す:

現在レジスト 5 が選択されていますので、作業の前にレジスト 1 を呼び出す必要があります。
レジストレーションのナンバーボタンの 1 を押して、レジスト 1 を呼び出します。

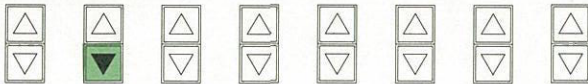


2 UPPER KEYBOARD VOICE 2の音色を“Trem. Strs.(トレモロストリングス)”に変える:

1 パネル上のUPPER KEYBOARD VOICE 2のSTRINGSボタンを押します。

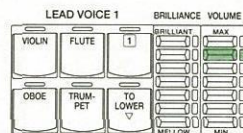
2 Trem. Strs.を、データコントロールボタンで選択します。

UPPER 2 Trem. Strs.							
STRINGS							
String 1	String 2	String 3	String 4	String 5	String 6		
Pizz. Strs.	Trem. Strs.			Synth. Strs.1	Synth. Strs.2	Synth. Strs.3	



3 LEAD VOICE 1のHorn 1の音量を下げる:

パネル上のLEAD VOICE 1の右側にある音量ボタンを押して、一目盛りだけ下げます。



4 LOWER KEYBOARD VOICE 1の音色を“Horn 2(ホルン 2)”に変える:

1 パネル上のLOWER KEYBOARD VOICE 1のHORNのボタンを押します。

2 Horn 2を、データコントロールボタンを押して選択します。

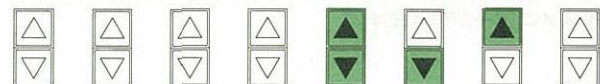
LOWER 1 Horn2							
HORN							
Horn 1	Horn 2	Horn 3	Muted Horn				



3 パネル上のHORNのボタン(または、Horn 2と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面1ページを表示させます。

イラストに示してあるとおり、Horn 2のコンディションを設定してください。

LOWER 1 Horn2							
HORN							
TOUCH	TONE	FEET	PAN	REV.	BRIL.	VOL.	
INITIAL	AFTER	RESET	LEFT	RIGHT			
		4'					
		8'					
		16'					

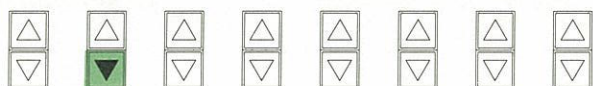


5 LOWER KEYBOARD VOICE 2の音色を"Trem. Strs.(トレモロストリングス)"に変える:

1 パネル上のLOWER KEYBOARD VOICE 2のSTRINGSボタンを押します。

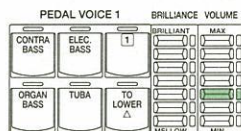
2 Trem. Strs. を、データコントロールボタンで選択します。

LOWER 2 Trem. Strs.						
STRINGS						
String 1	String 2	String 3	String 4	String 5	String 6	
Pizz. Strs.	Trem. Strs.			Synth. Strs.1	Synth. Strs.2	Synth. Strs.3



6 PEDAL VOICE 1のContraBass 2の音量を下げる:

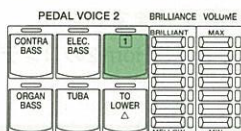
パネル上のPEDAL VOICE 1の右側にある音量ボタンを押して、二目盛りだけ下げます。



7 PEDAL VOICE 2の音色を"Trem. Strs.(トレモロストリングス)"に変える:

1 パネル上のPEDAL VOICE 2のナンバー 1 のボタン(ドットボタン)を押しながら.....

(このとき、LCDディスプレイには、右上にページナンバーの付いたボイスメニューが表示されます。)



PEDAL 2 Strings1						
STRINGS						
String 1	String 2	String 3	String 4	String 5	String 6	
Pizz. Strs.	Trem. Strs.			Synth. Strs.1	Synth. Strs.2	Synth. Strs.3

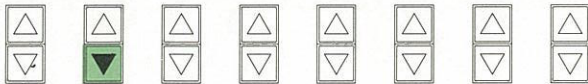
2 もう一方の指でパネル上のSTRINGSの音色ボタンを押します。

(どの音群でも可)

ディスプレイ上には、PEDAL VOICE 2に移されたSTRINGSのボイスメニューが現れます。

3 Trem. Strs. を、データコントロールボタンを押して選択します。

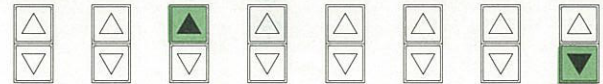
PEDAL 2 Trem. Strs. PAGE: 11 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 USER									
STRINGS									
String 1	String 2	String 3	String 4	String 5	String 6				
Pizz. Strs.	Trem. Strs.			Synth. Strs.1	Synth. Strs.2	Synth. Strs.3			



4 パネル上のナンバー **1** のボタン(または、Trem. Strs.と同じ位置にあるデータコントロールボタン)をもう一度押して、ボイスコンディション画面1ページを表示させます。

イラストに示してあるとおり、Trem. Strs.のコンディションを設定してください。

PEDAL 2 Trem. Strs. PAGE: 11 2 3									
TOUCH TONE FEET PAN REV. BRIL. VOL.									
INITIAL	AFTER	PRESET 4' 16'	LEFT	RIGHT	24	-3	16		

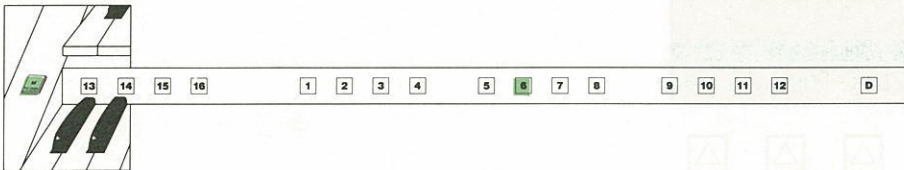


これでレジスト6の設定が完了しましたので、レジストレーションメモリーボタンに記録します。

レジスト6をレジストレーションメモリー6に記録する:

レジスト1同様に、Mボタンを押しながら、**6** のナンバーボタンを押します。

これで、レジスト6が設定されました。



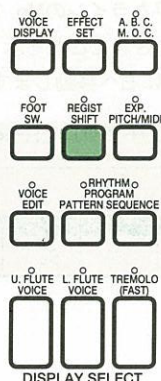
(2) レジストシフトをプログラムする

(1) で創ったレジストレーション (**1** ~ **6**) を、**1**→**2**→**3**→**2**→**3**→**4**→**5**→**6**→**1**→**5** の順序でレジストが変るようにプログラムし、右のフットスイッチでレジストチェンジしながら演奏できるようにします。

レジストシフト

レジストシフトをプログラムする:

1 LCDディスプレイ右側のDISPLAY SELECT(ディスプレイセレクト)セクションの中のREGIST SHIFT(レジストシフト)ボタンを押します。

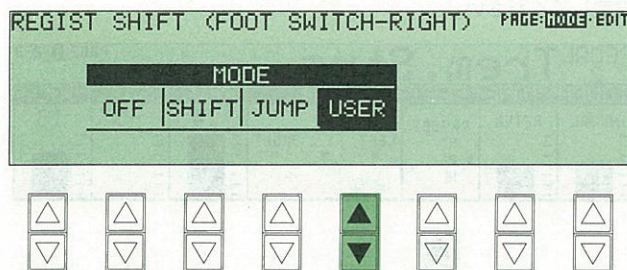


REGIST SHIFT (FOOT SWITCH-RIGHT)

MODE			
OFF	SHIFT	JUMP	USER

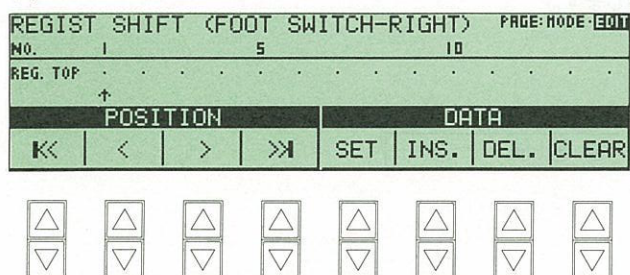
ディスプレイ上にREGIST SHIFT(レジストシフト)ページが表示されます。

2 イラストで示されたデータコントロールボタンを押します。



指定されたデータコントロールボタンを押すと、ディスプレイ右上にMODE(モード)とEDIT(エディット)のページ表示が現れます。

3 ページボタンを使ってEDITを選択すると、ディスプレイがレジストシフトのユーザー用のエディットページに切り替わりま

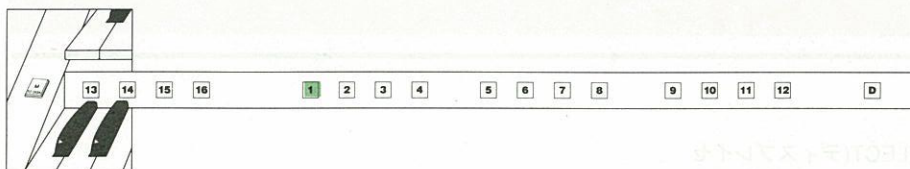


このエディットページを使って、レジストシフトをプログラムします。

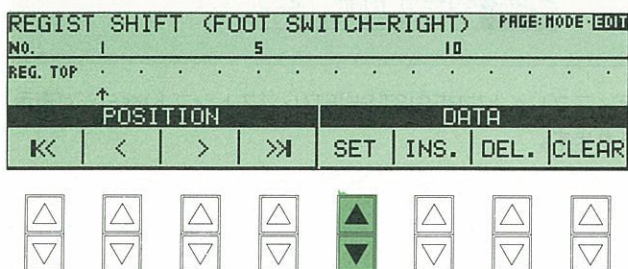
4 まず、レジスト1を入力します。

レジストシフトを入力するには：

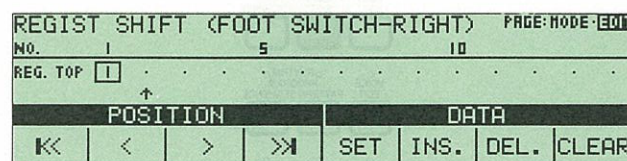
- [1]最初に、入力したいレジスト1のナンバーボタン **1** を押して、選択しておきます。



[2]つぎに、LCDディスプレイのSET(セット)の真下にあるデータコントロールボタンを押します。

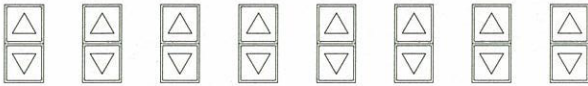


LCDディスプレイの水平なラインのNo.1の真下に **1** が表示され、レジスト1が入力されたことを示します。(入力位置を示すカーソル[↑]は自動的に右へ移動します。)



5 残りの ② から ⑥ までの5パターンも、同じ手順で入力し、以下のようにプログラムしてください。

REGIST SHIFT (FOOT SWITCH-RIGHT) PAGE:MODE-EDIT									
No.	1	5	10						
REG. TOP	1	2	3	2	3	4	5	6	1
POSITION					DATA				
KK	<	>	>>		SET	INS.	DEL.	CLEAR	



(レジストシフトについての詳細は、83ページをご参照ください。)

これで、レジストシフトのプログラムが完了しました。

(3)『星に願いを』を演奏する

演奏の準備ができましたので、12ページに戻って、『星に願いを』を演奏してみましょう。楽譜にレジストの指示がありますので、該当する箇所ですのフットスイッチを使ってレジストを変えながら演奏してください。(演奏を始める前に、右のフットスイッチを押して、レジスト①を呼び出してください。)



(4) LCDディスプレイ操作のまとめ

以上のレジストセッティング例での操作手順をまとめると、下図のようになります。

1. LCDディスプレイを呼び出す

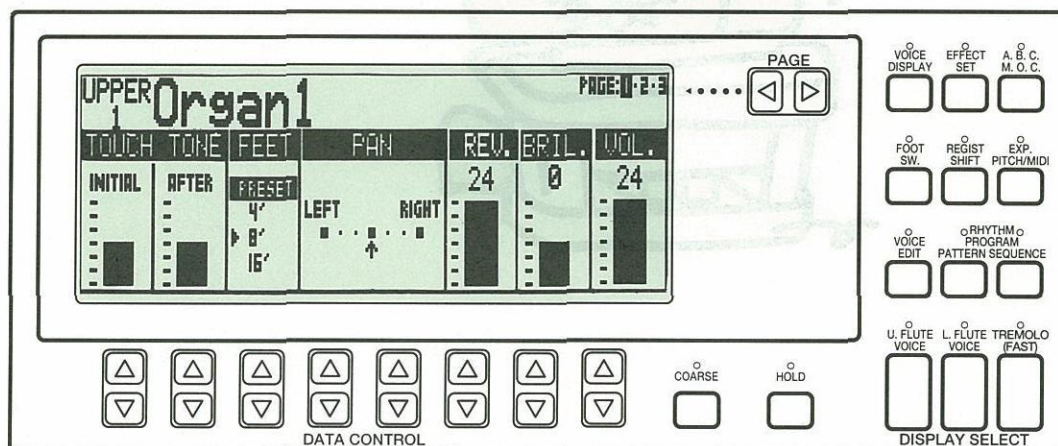
(1) パネルボタンを押す

- 音色の選択/コンディション(エフェクト)の設定
- リズムの選択/コンディションの設定; A.B.C.の設定
- リバース(楽器全体/個別)の設定
- サステインの設定
- キーボードパーカッション(ユーザー)の設定

LCD
ディスプレイ
表示

(2) DISPLAY SELECT (ディスプレイセレクト)ボタンを押す

- ボイスディスプレイの表示 (マニュアルバランスの設定)
- エフェクト(コンディション)の設定
- A.B.C./M.O.C.の設定
- 左フットスイッチの設定
- レジストシフト(右フットスイッチ)の設定
- セカンドエクスプレッションペダルの設定
- ピッチ/トランスポーズの設定
- MIDIの設定
- ボイスエディットの設定
- リズムパターンプログラムの設定
- リズムシーケンスの設定
- フルートボイスの設定/選択
- トレモロ/コーラスの選択と設定



2. ページを選択する

PAGE
(ページ)ボタンで
使用したいページ
を選択する

3. 設定したい内容进行操作する

DATA CONTROL (データコントロール) ボタンで

- ・音色/リズムやエフェクトなどを選択する
- ・アカンパニメントやABCのメモリーなどをオン/オフする
- ・タッチやリバーブなどを調節する
- ・リズムシーケンスなどを設定/編集する
- ・パンの設定位置やカーソルを移動させる

特殊な使い方として

- ・ユーザーレジストシフトやキーボードパーカッションのページ表示を出す
- ・キーボードパーカッションの打楽器カテゴリーページをめくる

使うと便利なホールドボタンとコースボタン**ホールドボタン**

セッティング中に1つの画面に固定しておきたいときは、DISPLAY SELECT (ディスプレイセレクト) セクションの左にあるHOLD (ホールド) ボタンを押してください。

HOLDボタンを押すと、LCDディスプレイがほかの画面に変わらないようになります。もう一度押せば、ホールド機能は解除されます。

コースボタン

ディスプレイなどの細かなパラメーター (設定値) を早く変更させたいときは、ホールドボタンの隣のCOARSE (コース) ボタンを使用してください。

COARSEボタンを押しながら、変更したいパラメーターの該当するデータコントロールボタンを押します。

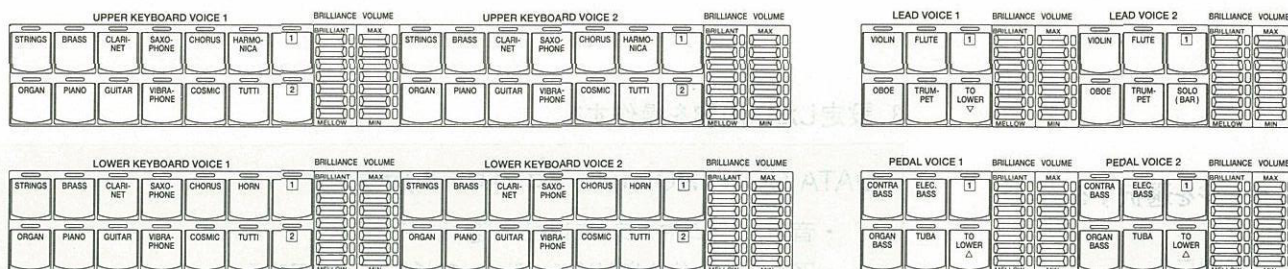
ページ数の多いボイスメニューのページをめくる場合にも有効です。

鍵盤をヒトの手足だとすると、LCDディスプレイは、ヒトの目や脳に似た

非常に重要な働きをすることがご理解いただけたと思います。

今までに学ばれたことを、次章から始まる本編に是非ご活用ください。

ELX-1には、全部で151種類にも及ぶ多彩でリアルな楽器音色が装備されています。全音色は、どの鍵盤でも使用することができますが、原則として、8つの音群に分かれています。上鍵盤にはUPPER KEYBOARD VOICE 1、2、LEAD VOICE 1、2の4つの音群、下鍵盤にはLOWER KEYBOARD VOICE 1、2、ペダル鍵盤にはPEDAL VOICE 1、2、それぞれ2つずつの音群があります。それぞれの音群で、個々に音色の設定やボリューム／コンディションの調整ができます。



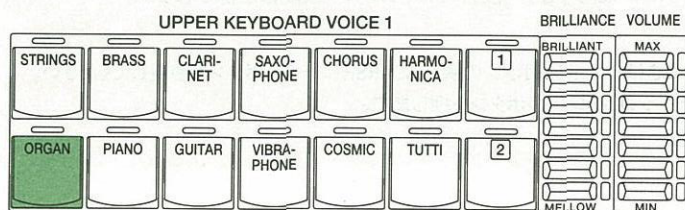
1 パネルで音色を選ぶ

音色の選び方は、どの鍵盤でもどの音群でも共通ですので、ここでは上鍵盤のUPPER KEYBOARD VOICE 1を例にとって説明します。

パネルで音色を選ぶには

- 1 パネル上のUPPER KEYBOARD VOICE 1のボイスボタンを押します。

Note: オルガンコンビネーションサウンドであるU./L. FLUTE VOICE（フルートボイス）の選択方法は、次章で説明します。



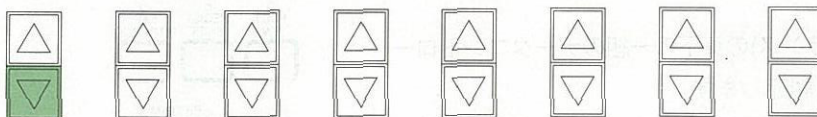
たとえば、ORGANを選択した場合、LCDディスプレイ上に以下の表示が現れます。



ディスプレイ上にはバリエーションとして色々な種類のオルガン音色（ボイスメニュー）が表示されます。

- 2 つぎに、ボイスメニューの中から使用したい音色を選択します。
イラストのように、自分の使用したい音色と同じ位置にあるDATA CONTROL(データコントロール)ボタンを押します。(この場合Pop Organ 1)

UPPER 1 PopOrgan1						
ORGAN						
Organ 1	Organ 2	Organ 3	Organ 4	Jazz Organ1	Jazz Organ2	Jazz Organ3
Pop Organ1	Pop Organ2	Theat. Organ1	Theat. Organ2	Accor-dion	Bando-neon	



LCDディスプレイの上段に、選択された音色名が大きく表示されます。
これでUPPER KEYBOARD VOICE 1には、Pop Organ 1 が設定されました。

- 3 同じ手順で、UPPER KEYBOARD VOICE 2、LEAD VOICE1、2の音も選択できます。

- 4 つぎに、それぞれの音群の音量を設定します。
音量を設定するには2通りの方法があります。

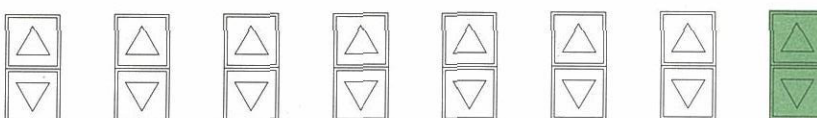
通常の設定(COARSE; コース):それぞれの音群の右端にあるボリュームコントロールを使用します。0~6の7段階になっています。

UPPER KEYBOARD VOICE 1						BRILLIANCE VOLUME	
STRINGS	BRASS	CLARINET	SAXOPHONE	CHORUS	HARMONICA	1	BRILLIANT
ORGAN	PIANO	GUITAR	VIBRAPHONE	COSMIC	TUTTI	2	MAX
							MIN

細かな設定(FINE; ファイン): パネル上に現在表示されている音色ボタンをもう一度押すことで、(または、現在選ばれている音色と同じ位置にあるデータコントロールボタンをもう一度押すことで) イラストにあるようなボイスコンディションディスプレイがLCD上に表示されます。

LCDディスプレイの右端に、ファインボリュームコントロールが表示されますので、その真下の一組のデータコントロールボタンを使って、音量を調節します。0~24の細かな設定が可能です。

UPPER 1 PopOrgan1					PAGE: 0-2-3		
TOUCH TONE		FEET	PAN		REV.	BRIL.	VOL.
INITIAL	AFTER	PRESET	LEFT	RIGHT	24	0	24
		4' 8' 16'					



Note: パネル上の音色ボタンを一度押すと、その音色のボイスメニュー(バリエーション)がLCD上に表示されます。もう一度押すと、ボイスコンディション画面が表示されます。ボタンを繰り返し押すと、ボイスメニューとコンディション画面が交互に繰り返し表示されます。

5

同じ手順で、下鍵盤やペダル鍵盤の音色も設定します。

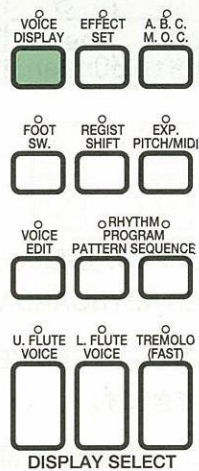
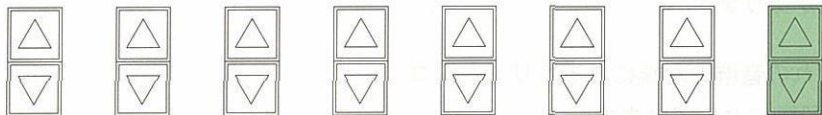
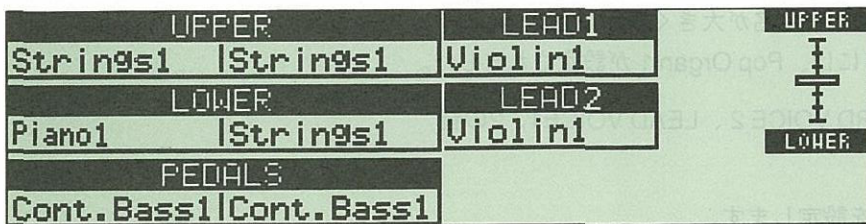
Note: リードやペダル鍵盤の音色は、複数の鍵盤を同時に押した場合は、押された鍵盤の一番高い音一音が発音されます（単音／高音優先）。

6

上鍵盤と下鍵盤の音量バランスは、VOICE DISPLAY(ボイスディスプレイ)上のバランスコントロールで調節してください。

音量バランスを調整するには:

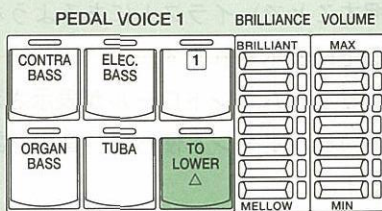
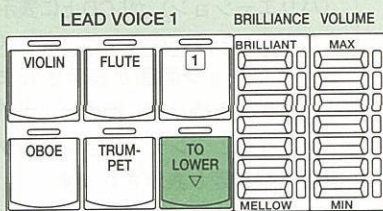
1. パネル上のDISPLAY SELECT (ディスプレイセレクト) セクションのVOICE DISPLAYボタンを押します。(電源オン時には、必ずVOICE DISPLAYが表示されます。)
2. バランスコントロール(マニュアルバランス)の真下の一組のデータコントロールボタンを使って、音量バランスを調節します。



この一組のデータコントロールボタンを同時に押せば、バランスは真中に戻ります。

TO LOWER (トゥーロワー) 機能について

パネル上の上鍵盤のLEAD VOICE 1やペダル鍵盤のPEDAL VOICE 1、2の音色は、それぞれの音群内のTO LOWERボタンを押せば、下鍵盤で演奏することができます。



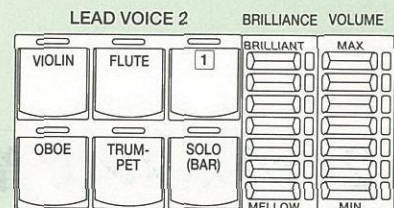
SOLO(ソロ)モードについて

LEAD VOICE 2には、ほかの音群と異なり、SOLOモード機能があります。SOLOモード機能を使うことによって、演奏中でも瞬時に上鍵盤をソロプレイのモードに切り替えることができます。

ソロモードを選択するには:

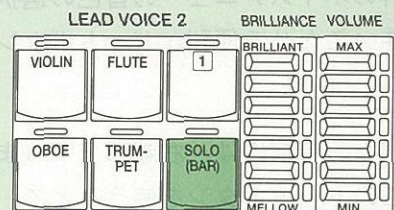
- 1 ソロモードで演奏したい音色をLEAD VOICE 2の音群で設定します。

この場合は、UPPER KEYBOARD VOICE 1、2、LEAD VOICE 1、2すべての上鍵盤の音色が演奏可能です。



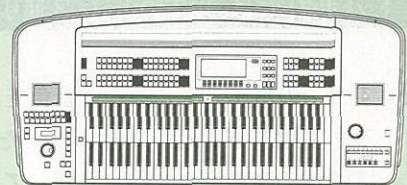
- 2 つぎに、LEAD VOICE 2のSOLO(BAR)ボタンを押します。これで、ソロモードが待機状態になりました。

この状態は、アップパーモードで、LEAD VOICE 2を除いた音色が上鍵盤で演奏可能です。



- 3 演奏しながら、上鍵盤の真上にあるBAR(バー)を押します。

これで、ソロモードになりました。LEAD VOICE 2だけが上鍵盤で演奏可能です。



上鍵盤の音色はLEAD VOICE 2で設定したソロ音色に切り替わり、BAR中央にあるランプが点灯し、ソロモードになったことを示します。もう一度BARを押すことによって、アップパーモードに戻ります。SOLOボタンを押してキャンセルしない限り、BARによって、アップパーモードとソロモードを交互に選択できます。

SOLOボタン／BARと上鍵盤音色の関係

	SOLOボタンオフ	SOLOボタンオン	
		BARオフ(アップパーモード)	BARオン(ソロモード)
発音される音群	UPPER KEYBOARD VOICE 1,2	UPPER KEYBOARD VOICE 1,2	
	LEAD VOICE1 (高音優先)	LEAD VOICE1 (高音優先)	
	LEAD VOICE2 (高音優先)		LEAD VOICE2 (後着優先)

Note: アップパーモードからソロモードに切り替わった後も、アップパーモードで押鍵していた音色はそのまま発音され、切り替え以降に押鍵されたものからソロモードになります。逆の場合も同様です。

Note: LEAD VOICEは単音／高音優先で発音されますが、LEAD VOICE 2は、ソロモードでは後着優先となります。

Note: LEAD VOICE 2は、MDRで分離(パート)録音することはできません。

ミュート機能について

それぞれの音群の音量を設定する際に、一時的にほかの音色の音量を0に設定することができます。パネル面のCOARSE(コース)ボタンを押しながら、同時に、一時的に音量を0にしたい音群のボリュームコントロール(どの部分でも可)を押します。

もう一度同じ操作を繰り返すことによって、一時的に0になった音量は、最初に設定しておいた値に戻ります。

2 ドットボタンで音色を選ぶ——ドットボタンとユーザー音色について——

ELX-1には、パネル上の音色ボタン数より遥かに多くの音色が内蔵されています。今までに、個々の音群のボイスメニューの音色の選択方法を説明しましたが、ここでは、それぞれの音群の全音色を自在に使いこなせる便利なドットボタンや、ユーザー音色について説明します。

個々の音群には、右端に2つ（または1つ）のドットボタンがあります。

このドットボタンを使うことで、すべての音群の音色や、自分で創ったユーザー音色を、どの音群にでも呼び出すことが可能です。

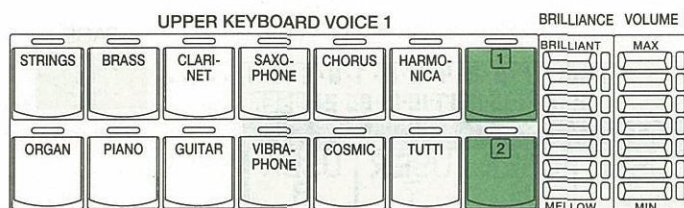
ドットボタンには、以下のように3通りの便利な使い方があります。

1. すべてのボイスメニューの音色を、上鍵盤でも、下鍵盤でも、ペダル鍵盤でも使用することができます。たとえば、UPPER KEYBOARD VOICE 1には12の音色ボタン---したがって12種類のボイスメニューがありますが、ドットボタンを使うことによって22種類のボイスメニューすべてから、音色を選択することが可能になります。(UPPER KEYBOARD VOICEで、単音のLEAD VOICEやPEDAL VOICEを選択すると、複音で演奏することが可能になります。)
2. 同じ1枚のボイスメニュー(LCDディスプレイ)の中にある3つの異った音色を同一の曲で使用したい場合、1つの音群の2つのドットボタンを使うことで、あらかじめパネル上のボタンに3音色とも呼び出しておけます。
3. 自分で創ったユーザー音色や別売ボイスディスクの音色データを保存できるUSER(ユーザー)ページを選択することができます。(第8章ボイスエディットをご参照ください。)



ドットボタンで音色を選ぶには

- 1 使用したい音群のドットボタンを押します。

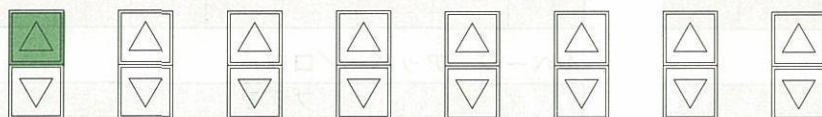


- 2 LCDディスプレイの右側にあるPAGE(ページ)ボタンを押して、22ページ(種類)のボイスメニューの中から使用したい音色の属しているページを選択します。(この場合、現在選ばれている音色はPop Organ 1です。ここでは17ページのピアノのメニューの中からPiano 1を選ぶことにします。)



ページボタンで選択したページのタイトルが、LCDディスプレイ中央の黒いベルトの中に表示されます。この時点では、まだ実際にデータコントロールボタンによって音色が選択されていませんので、中央のページタイトルとディスプレイ上段に大きく表示されている音色名は一致しません。

- 3 データコントロールボタンを使って、Piano 1 を選択します。



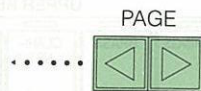
LCDディスプレイ上段にPiano 1が大きく表示され、Piano 1が選択されたことを示します。

Note: ドットボタンを押し続けたままで、自分の使用したい音色ボタンを押すと、他のページを経由しなくても、すぐにそのページが選択できます。

USER(ユーザー)音色を選ぶには

上記と同じ手順でUSER(ユーザー)ページを選択し、ユーザー音色を選ぶことができます。

UPPER Piano1				PAGE: 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11 12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・USER							
				USER VOICE							
USER 1	USER 2	USER 3	USER 4	USER 5	USER 6	USER 7	USER 8				
USER 9	USER 10	USER 11	USER 12	USER 13	USER 14	USER 15	USER 16				



ボイスエディット(111ページをご参照ください。)で創った音色や、ボイスディスク(114ページをご参照ください。)からの音色を使用したい場合には、ユーザーページを選択し、該当するユーザーナンバーボタンを押してください。

3 ボイスメニュー

ボイスメニューのリストです。下記のリストの番号はLCDディスプレイのページナンバーと共通です。

1 ページ Upper/Lower

STRINGS							
String 1	String 2	String 3	String 4	String 5	String 6		
Pizz. Strs.	Trem. Strs.			Synth. Strs.1	Synth. Strs.2	Synth. Strs.3	

2 ページ Lead

VIOLIN						
Violin 1	Violin 2	Violin 3	Violin 4	Pizz. Violin	Cello	Kokyu

3 ページ Pedal

CONTRA BASS						
Contra Bass 1	Contra Bass 2	Contra Bass 3		Pizz. Bass	Uprght Bass	

4 ページ Upper/Lower

BRASS					
Brass 1	Brass 2	Brass 3	Brass 4	Synth. Brass 1	Synth. Brass 2

5 ページ Lower

HORN			
Horn 1	Horn 2	Horn 3	Muted Horn

1 ページ アッパー/ロワー

ストリングス							
ストリングス 1	ストリングス 2	ストリングス 3	ストリングス 4	ストリングス 5	ストリングス 6		
ピチカート ストリングス	トレモロ ストリングス			シセ ストリングス 1	シセ ストリングス 2	シセ ストリングス 3	

2 ページ リード

バイオリン						
バイオリン 1	バイオリン 2	バイオリン 3	バイオリン 4	ピチカート バイオリン	チェロ	胡弓

3 ページ ペダル

コントラバス						
コントラバス 1	コントラバス 2	コントラバス 3		ピチカート ベース	アップライト ベース	

4 ページ アッパー/ロワー

ブラス					
ブラス 1	ブラス 2	ブラス 3	ブラス 4	シセブラス 1	シセブラス 2

5 ページ ロワー

ホルン			
ホルン 1	ホルン 2	ホルン 3	ミュートッド ホルン

6 ページ Lead

TRUMPET							
Trumpet 1	Trumpet 2	Trumpet 3	Trumpet 4	Trumpet 5	Muted Trp.		
Trombone 1	Trombone 2	Muted Trb.		Flugel Horn		Euphonium	

7 ページ Pedal

TUBA							
Tuba				Timpani	Timp. Roll		

8 ページ Lead

FLUTE							
Flute 1	Flute 2	Piccolo	Yokobue	Recorder	Ocarina	Pan Flute	Shakuhachi
Whistle							

9 ページ Lead

OBOE							
Oboe 1	Oboe 2	English Horn		Bassoon 1	Bassoon 2		

10 ページ Upper/Lower

CLARINET							
Clarinet 1	Clarinet 2	Bass. Cla.		Synth. Cla. 1	Synth. Cla. 2		

11 ページ Upper/Lower

SAXOPHONE							
Saxophone 1	Saxophone 2	Sopra. Sax.	Sax. Ensem.	Synth. Sax.			

12 ページ Upper/Lower

TUTTI							
Tutti 1	Tutti 2	Tutti 3	Tutti 4	Tutti 5	Tutti 6	Tutti 7	

13 ページ Upper/Lower

CHORUS							
Chorus 1	Chorus 2	Chorus 3	Chorus 4		Vocal		

14 ページ Upper

HARMONICA							
Harmonica 1	Harmonica 2						

15 ページ Upper/Lower

ORGAN							
Organ 1	Organ 2	Organ 3	Organ 4	Jazz Organ 1	Jazz Organ 2	Jazz Organ 3	
Pop Organ 1	Pop Organ 2	Theat. Organ 1	Theat. Organ 2	Accordion	Bandoneon		

6 ページ リード

トランペット							
トランペット 1	トランペット 2	トランペット 3	トランペット 4	トランペット 5	ミュート付トランペット		
トロンボーン 1	トロンボーン 2	ミュート付トロンボーン		フルーガルホルン		ユーフォニウム	

7 ページ ペダル

チューバ							
チューバ				ティンパニ	ティンパニロール		

8 ページ リード

フルート							
フルート 1	フルート 2	ピッコロ	横笛	リコーダー	オカリナ	パンフルート	尺八
ホイッスル							

9 ページ リード

オーボエ							
オーボエ 1	オーボエ 2	イングリッシュホルン		バスーン 1	バスーン 2		

10 ページ アッパー/ロワー

クラリネット							
クラリネット 1	クラリネット 2	バスクラリネット		ジセクラリネット 1	ジセクラリネット 2		

11 ページ アッパー/ロワー

サキソフォン							
サキソフォン 1	サキソフォン 2	ソプラノサックス	サックスアンサンブル	シンセサックス			

12 ページ アッパー/ロワー

トウッティ							
トウッティ 1	トウッティ 2	トウッティ 3	トウッティ 4	トウッティ 5	トウッティ 6	トウッティ 7	

13 ページ アッパー/ロワー

コーラス							
コーラス 1	コーラス 2	コーラス 3	コーラス 4		ボーカル		

14 ページ アッパー

ハーモニカ							
ハーモニカ 1	ハーモニカ 2						

15 ページ アッパー/ロワー

オルガン							
オルガン 1	オルガン 2	オルガン 3	オルガン 4	ジャズオルガン 1	ジャズオルガン 2	ジャズオルガン 3	
ポップオルガン 1	ポップオルガン 2	シアターオルガン 1	シアターオルガン 2	アコーディオン	バンドネオン		

16 ページ Pedal

ORGAN BASS							
Organ Bass 1	Organ Bass 2	Organ Bass 3	Organ Bass 4				

17 ページ Upper/Lower

PIANO							
Piano 1	Piano 2	Honky Tonk		Elec. Piano 1	Elec. Piano 2		
Harpsi-chord		Clavi.	Clavi-chord				

18 ページ Upper/Lower

GUITAR							
Guitar 1	Guitar 2	Guitar 3	12 Str. Guitar	Banjo	Mando-lin	Sitar	Shami-sen
Elec. Gtr. 1	Elec. Gtr. 2	Muted Guitar	Dist. Guitar	Harp	Steel Guitar	Koto	Taisho koto

19 ページ Upper/Lower

VIBRAPHONE							
Vibra-phone	Gloc-ken.	Celes-ta	Music Box	Marim-ba	Xylo-phone		
Chime	Synth. Chime			Steel Drum			

20 ページ Pedal

ELECTRIC BASS							
Elec. Bass 1	Elec. Bass 2	Elec. Bass 3	Elec. Bass 4	Synth. Bass 1	Synth. Bass 2	Synth. Bass 3	

21 ページ Upper/Lower

COSMIC							
Cosmic 1	Cosmic 2	Cosmic 3	Cosmic 4	Cosmic 5	Cosmic 6	Cosmic 7	Cosmic 8
Cosmic 9							

22 ページ USER

USER VOICE							
USER 1	USER 2	USER 3	USER 4	USER 5	USER 6	USER 7	USER 8
USER 9	USER 10	USER 11	USER 12	USER 13	USER 14	USER 15	USER 16

16 ページ ペダル

オルガン ベース							
オルガン ベース 1	オルガン ベース 2	オルガン ベース 3	オルガン ベース 4				

17 ページ アッパー/ロワー

ピアノ							
ピアノ 1	ピアノ 2	ホンキートンクピアノ		エレクトリックピアノ1	エレクトリックピアノ2		
ハーpsiコード		クラビ	クラビコード				

18 ページ アッパー/ロワー

ギター							
ギター 1	ギター 2	ギター 3	12弦ギター	バンジョー	マンドリン	シタール	三味線
エレクトリックギター1	エレクトリックギター2	ミュートッドギター	ディストーションギター	ハーブ	スチールギター	琴	大正琴

19 ページ アッパー/ロワー

ビブラフォン							
ビブラフォン	グロッケン	チェレスタ	ミュージックボックス	マリンバ	シロフォン		
チャイム	シンセチャイム			スチールドラム			

20 ページ ペダル

エレキベース							
エレキベース 1	エレキベース 2	エレキベース 3	エレキベース 4	シンセベース 1	シンセベース 2	シンセベース 3	

21 ページ アッパー/ロワー

コズミック							
コズミック 1	コズミック 2	コズミック 3	コズミック 4	コズミック 5	コズミック 6	コズミック 7	コズミック 8
コズミック 9							

22 ページ ユーザー

ユーザー ボイス							
ユーザー 1	ユーザー 2	ユーザー 3	ユーザー 4	ユーザー 5	ユーザー 6	ユーザー 7	ユーザー 8
ユーザー 9	ユーザー 10	ユーザー 11	ユーザー 12	ユーザー 13	ユーザー 14	ユーザー 15	ユーザー 16



このフルートボイス機能を使うことによって、多彩なスタイルのオリジナルオルガンサウンドを創ることができます。伝統的なオルガンと同じように、フルートフッテージを上げ下げしたり、パーカッシブサウンドを加えたりして、ゴージャスなフルオルガンサウンドがあなたの思い通りに創れます。

フッテージには、8つのフルートフッテージと3つのアタックフッテージがあります。プリセットオルガンサウンドから始めていくのもいいし、最初からオリジナルサウンドを創るのもいいでしょう。

この機能は、MENU(メニュー)・FOOTAGE(フッテージ)・ATTACK(アタック)・VOLUME(ボリューム)・SAVE(セーブ)の5つのページで構成されています。

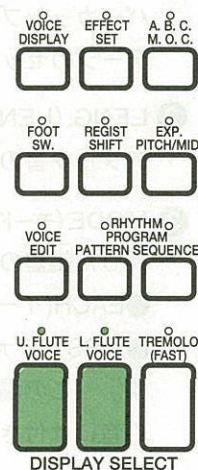
1 フルートボイスを創る

8種類のフルートフッテージと3種類のアタックフッテージを組み合わせ、さまざまなオルガンサウンドを創ってみましょう。

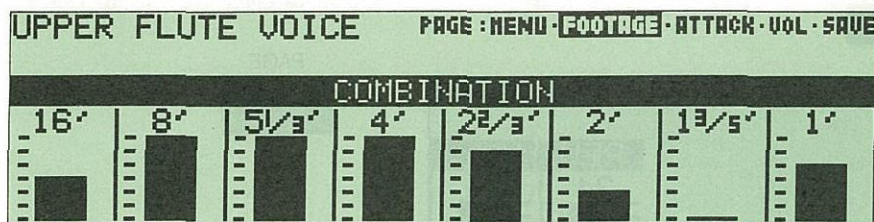
フルートボイスを設定するには

- 1 DISPLAY SELECT(ディスプレイセレクト)セクションの中のU.FLUTE VOICE(アップパーフルートボイス；上鍵盤)、またはL.FLUTE VOICE(ローフルートボイス；下鍵盤)ボタンを押します。

ボタンを押すと、LCDディスプレイにフルートフッテージが表示されます。
この場合、ボタンのランプが点灯します。

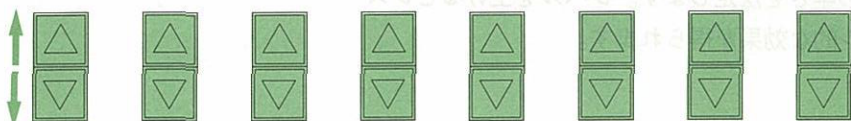
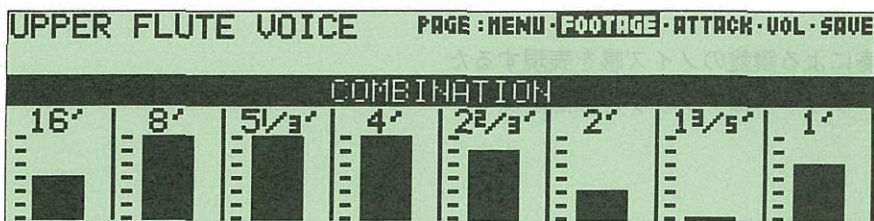


FOOTAGE(フッテージ)ページ



Note: もう一度ボタンを押すと、このフルートボイス機能は終了し、最初の画面のVOICE DISPLAY(ボイスディスプレイ)表示に戻ります。

- 2 実際に、各フッテージの組み合わせを設定しましょう。



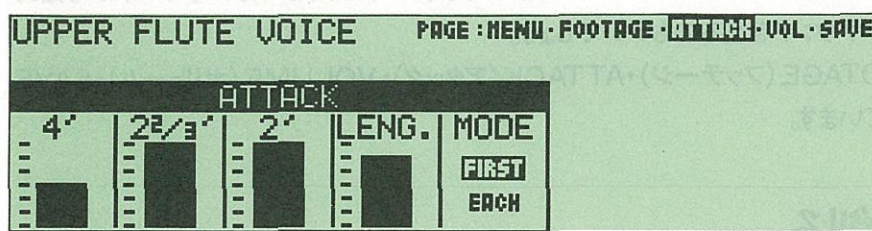
それぞれのフッテージの真下にあるデータコントロールボタンが、フッテージのボリュームを調整します。▲を押すとそのフッテージのボリュームが上がり、▼を押すとボリュームが下がります。ミックスされた音色の変化を確かめながら、一つ一つ調整していきましょう。

Note: フルートボイス全体の音量は、VOL. (ボリューム)ページで設定します。



3 つぎに、右上のページボタンを使って、次ページを選び、全体の音量やアタックなどを設定し、フルートボイスを完成させます。

ATTACK (アタック) ページ



①

②

③

① ATTACK (アタックフッテージ)

パーカッシブ音の音量を設定します。4'、2 2/3'、2'のアタックフッテージのセッティングができます。

② LENG. (LENGTH; アタックレングス)

アタック音の長さを決定します。

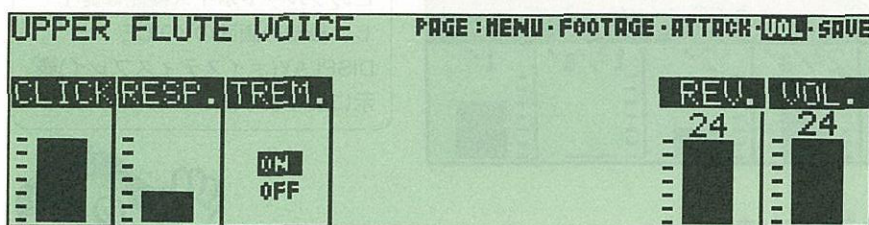
③ MODE (モード)

押した鍵盤のどの音にアタックを付けるかを決定します。

- EACH(イーチ)で、全部の音にアタックが付きます。
- FIRST(ファースト)で、最初に押した鍵盤の音にだけアタックが付きます。(この場合、最初の鍵盤が押えられている間は、アタックはほかの音には付きません。)

Note: MODE(モード)はアップー／ロワー共通です。

VOL (VOLUME; ボリューム) ページ



①

②

③

④

⑤

① CLICK (クリック)

オルガンサウンドに固有の、演奏による鍵盤のノイズ感を表現するためのクリックのボリュームです。クリックはアタックとは無関係で、独立した1つの効果機能です。

② RESP. (RESPONSE; レスpons)

フルートボイス全体のレスポンスの早さを決定します。レベルを上げるとレスポンスが遅くなり、パイプオルガンのような効果が得られます。

③ TREM. (TREMOLO; トレモロ)

フルートボイスのトレモロエフェクトのオン／オフスイッチの役割をします。このスイッチをオンにすると、実際に演奏しながら、ディスプレイセレクトセクションのTREMOLO(FAST)ボタンを使って、トレモロ／コーラスの切り替えをすることができます。(詳しくは、57ページのトレモロセクションをご参照ください。)

④ REV. (REVERB; リバーブ)

フルートボイスにかかるリバーブの量を設定します。

⑤ VOL. (VOLUME; ボリューム)

フルートボイスセクションの全体の音量を決定します。

Note: このリバーブを最大にしても、パネル上のリバーブボリュームを上げないと、リバーブ効果は得られません。

Note: このVOLが0になっていると、フルートボイスの音は出ません。

2 創ったフルートボイスを保存する

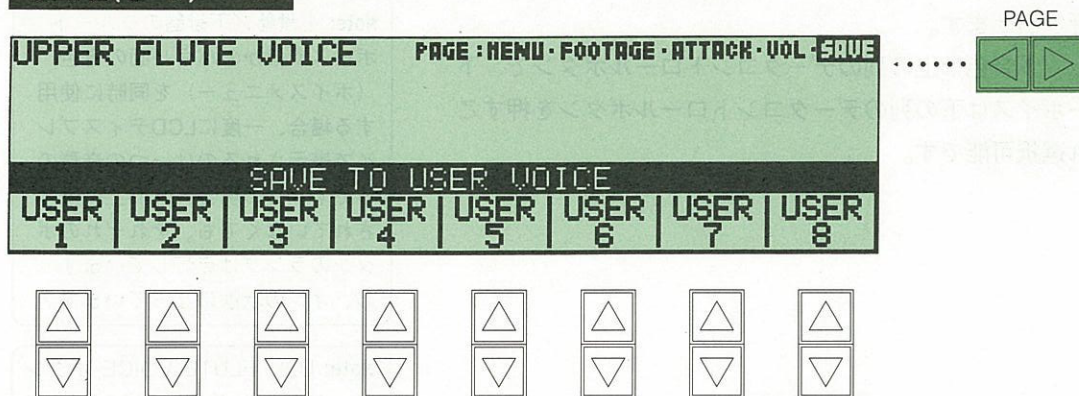
上記のセクションで創ったフルートボイスをユーザーボイスに保存しましょう。それぞれのページで創ったデータは、リバーブ、アタックのモード、トレモロのオン／オフと音量の設定を除いて、すべてユーザーボイスに保存することができます。

データを保存できるフルートユーザーボイスは全部で8個あります。

創ったフルートボイスを保存するには

- 1 ページボタンを使って、SAVE(セーブ)ページを開きます。

SAVE (セーブ) ページ



- 2 1 から 8 までのユーザーボイスの中から、データを保存したいユーザーボイスのナンバーを選択します。
- 3 それぞれのナンバーの真下の一組のデータコントロールボタンを押します。これで、保存完了です。保存が完了したら、一時的にそのユーザーナンバーが点滅します。このとき、それ以前にUSER (ユーザー) に記録しておいた音色は消去されますので、注意しましょう。
このページで保存したユーザーボイスは、つぎのMENU(メニュー)ディスプレイで呼び出すことができます。

3 プリセットボイスや保存したフルートボイスを使う

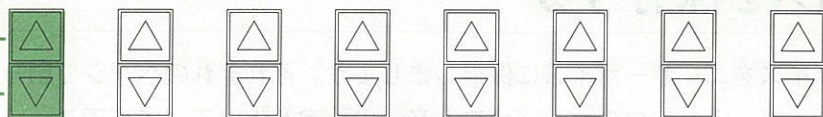
プリセットボイスや保存したフルートボイスを呼び出すには

1 ページボタンを使って、MENU(メニュー)ページを開きます。

MENU(メニュー)ページ

UPPER FLUTE VOICE							
FROM PRESET & USER VOICE							
Jazz Org. 1	Jazz Org. 2	Jazz Org. 3	Jazz Org. 4	Pop Org. 1	Pop Org. 2	Pop Org. 3	Pop Org. 4
USER 1	USER 2	USER 3	USER 4	USER 5	USER 6	USER 7	USER 8

PAGE



2 それぞれのプリセットボイス/ユーザーボイス名と同じ位置にあるデータコントロールボタンを押して、使用したい音色を選択します。このディスプレイでは、オルガンのプリセットが8音色（ジャズオルガンが4つとポップオルガンが4つ）と、自分で保存したユーザーボイス8音色が呼び出せます。

上の列のプリセット音色は上の列のデータコントロールボタンで、下の列のユーザーボイスは下の列のデータコントロールボタンを押すことで、それぞれ選択可能です。

Note: このフルートボイスのユーザーセクションは、第1章ボイスメニューのUSER（ユーザー）とは異なります。

Note: 上鍵盤/下鍵盤のフルートボイスやほかのパネル面の音色（ボイスメニュー）を同時に使用する場合、一度にLCDディスプレイで表示されるのは一つの音群のみです。この場合、LCD上に表示されていない場合、それぞれのボタンのランプは点灯していますし、オンの状態になっています。

Note: U./L. FLUTE VOICE ボタンは、フルートボイスのオン/オフスイッチの役割をします。フルートボイスのLCDディスプレイを表示させてオルガンの音色を決定した後、ほかの機能のディスプレイを表示させて、その後、またフルートボイスの表示に戻す場合、一度フルートボイスをオフにして更にオンにする必要があります。演奏前に、フルートボイスがオンの状態になっているか、必ずご確認ください。



4 コントロールとエフェクト

ELX-1では、ボイスコンディションページやエフェクトセットページなどを使用して、選択した音色に色々なコントロールやエフェクトを加えて、多彩に変化させることができます。

また、音色によっては、あらかじめエフェクトがプリセットされているものもありますが、すべてお好みに応じて設定を変えることが可能です。搭載したエフェクトは、すべてデジタルエフェクトです(ダイナミックレンジエンハンサー除く)。

下図は、個々の音群に設定可能なコントロールやエフェクトのリストです。コントロール/エフェクトは種類によってかかり方が異なり、各音群ごと、鍵盤ごと、そして楽器全体にかかるものがあります。

		タッチ トーン	フィート	パン	プリリアンス	シンフォニック セレステ	ディレイ	フランジャー	ディストーション	ビブラート	リードスライド	リードチューン	ダイナミックレンジ エンハンサー	リバーブ *	サステイン	トレモロ/コーラス *2
アップ	アッパーキーボード ボイス1	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		○
	アッパーキーボード ボイス2	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		○
ロー	ローキーボード ボイス1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-		○		○
	ローキーボード ボイス2	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○
リード	リードボイス1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	-	○
	リードボイス2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○
ペダル	ペダルボイス1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-		○	○	○
	ペダルボイス2	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		○
関連したLCDディスプレイ	ボイスコンディション ページ1	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-		○		-
	ボイスコンディション ページ2 *3					○	○	○	○	-	-	-	-			○
	ボイスコンディション ページ3					-	-	-	-	○	○	○		-	-	
	エフェクト セットページ *3					○	○	○	○				○			-
	リバーブページ									-	-	-		○		
	サステインページ					-	-	-	-				-		○	
	トレモロページ														-	○

*1 リバーブの設定は音群ごとにできますが、リバーブ全体の深さ/長さの設定はリバーブページ1で行います。

*2 トレモロ/コーラスのオン/オフ及び、トレモロ/コーラスの切替は楽器全体で1つです。

*3 ボイスコンディションページ2とエフェクトセットページの内容は、ダイナミックレンジエンハンサーを除いて共通です。

またコントロールやエフェクトを加えるには：

1 ボイスコンディションページで設定するもの

2 エフェクトセットページで設定するもの

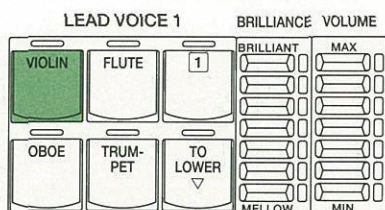
3 パネルボタンで呼び出すものの三種類に大別されます。

ここでは、この順序に従って、各コントロール/エフェクトを説明していきます。

1 ボイスコンディションページで設定するもの

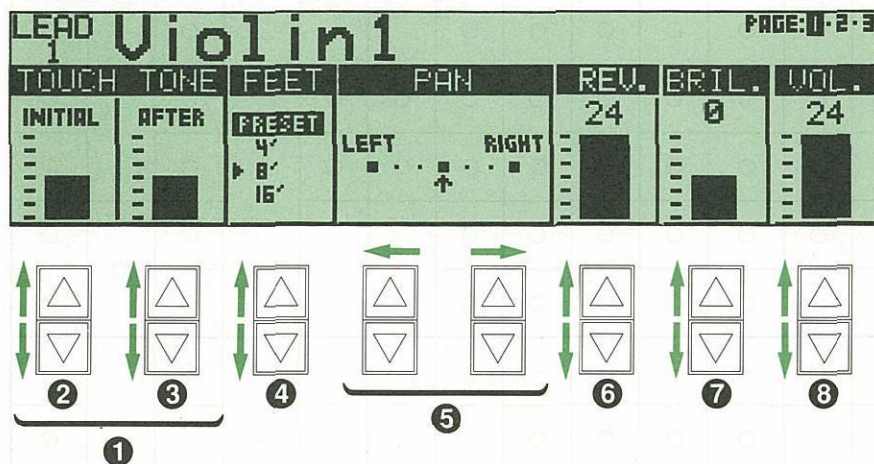
ボイスコンディションページを呼び出すには

パネル上の音色ボタンを二度続けて押すと（LCD上に使用したい音色【音群】がすでに表示されている場合は一度だけ押す）、LCD上にボイスコンディションページが現れます。



ボイスコンディションは、音群ごとに1ページから3ページまであります。まず最初にすべてのページをご覧ください。

【ページ1】ボイスコンディションページ



① TOUCH TONE(タッチトーン) 49ページをご参照ください。

② INITIAL(イニシャルタッチ)

③ AFTER(アフタータッチ)

④ FEET(フィート) 49ページをご参照ください。

⑤ PAN(パン) 50ページをご参照ください。

⑥ REV.(REVERB;リバーブ)

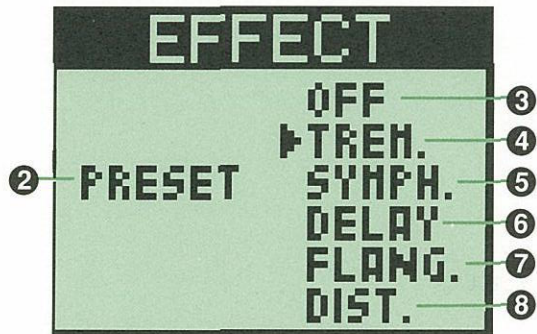
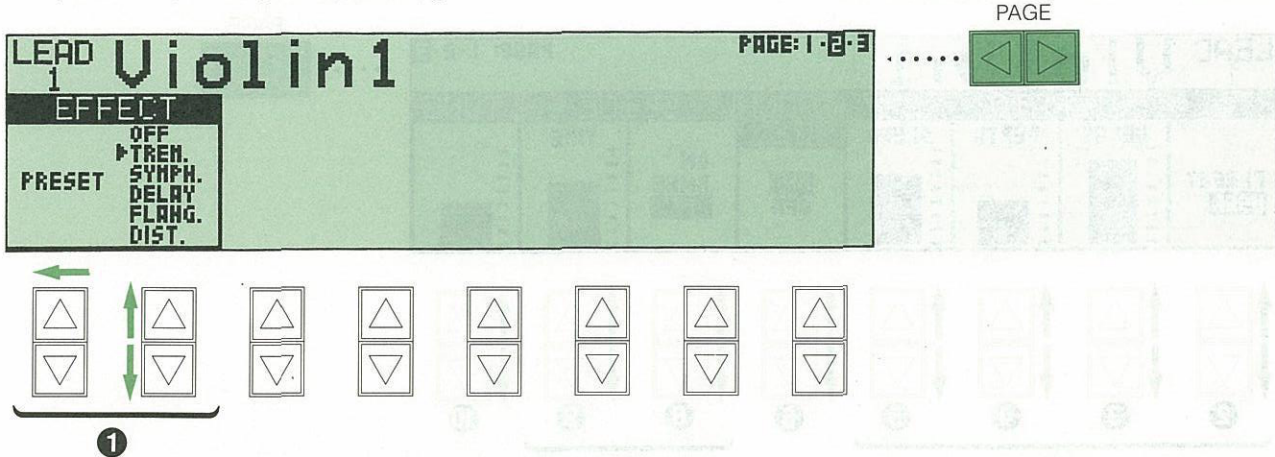
音群ごとにかけるリバーブの量を設定します。このリバーブを最大にしても、パネル上のリバーブ全体のボリュームを上げないと、リバーブ効果は得られません。（詳しくは、55ページのリバーブセクションをご参照ください。）

⑦ BRIL.(BRILLIANCE;ブリリアンス) 50ページをご参照ください。

⑧ VOL.(VOLUME;ボリューム) 33ページをご参照ください。

【ページ2】ボイスコンディションページ

ページボタンで2ページめを選びます。



① EFFECT(エフェクト)

ここで、音群ごとにかけるエフェクトの種類を決定します。

このEFFECTは、ディスプレイセレクトの中のエフェクトセットボタンでも設定できます。

② PRESET(プリセット)

PRESET(プリセット)が基本設定です。(音色によっては、あらかじめエフェクトが設定されているものがあります)

③ OFF(オフ)

OFF(オフ)ですべてのエフェクトを取り消します。

④ TREM.(TREMOLO;トレモロ)

TREM.を選択することで、各音群にかかるトレモロ／コーラス効果の基本スイッチをオンの状態にします。演奏中のオン／オフやトレモロスピードの設定は、別のページで行います。(詳しくは、57ページのトレモロ／コーラスセクションをご参照ください。)

⑤ SYMPH.(SYMPHONIC;シンフォニック) 50ページをご参照ください。

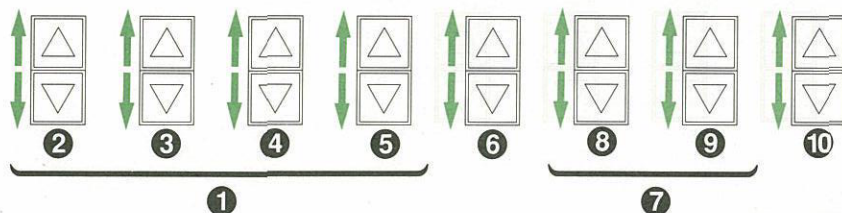
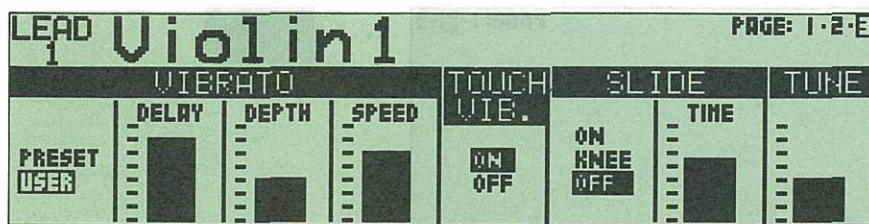
⑥ DELAY(ディレイ) 51ページをご参照ください。

⑦ FLANG.(FLANGER;フランジャー) 51ページをご参照ください。

⑧ DIST.(DISTORTION;ディストーション) 52ページをご参照ください。

【ページ3】ボイスコンディションページ

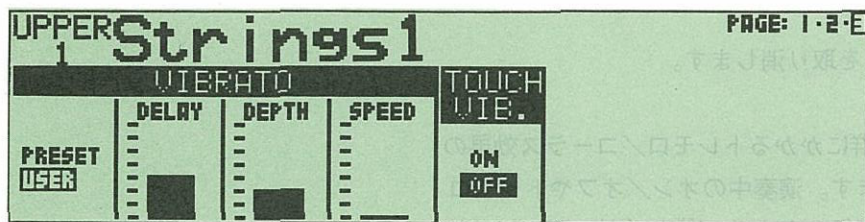
ページボタンで3ページめを選びます。



- ① VIBRATO(ビブラート) 52ページをご参照ください。
- ② PRESET/USER(プリセット/ユーザー切り替)
- ③ DELAY(ディレイ)
- ④ DEPTH(デプス)
- ⑤ SPEED(スピード)
- ⑥ TOUCH VIB.(TOUCH VIBRATO; タッチビブラート)
- ⑦ SLIDE(スライド; リードボイスのみ) 53ページをご参照ください。
- ⑧ ON/KNEE/OFF(オン/ニー/オフ)
- ⑨ TIME(タイム)
- ⑩ TUNE(チューン; リードボイスのみ) 53ページをご参照ください。

ボイスコンディションの3ページは、LEAD音群とそれ以外の音群によって、内容が異なります。(リードスライドとリードチューンは、LEAD VOICEのみの設定です。)

LEAD VOICE以外の3ページ

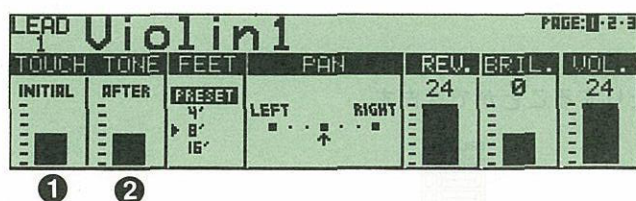


ボイスコンディションページ1

(1) タッチトーン

タッチトーンは、1つの楽器音の音量／音質全体にわたって、より豊かに、またはより繊細に表現する力を発揮するもので、楽器表現の命とも言える重要な機能の1つです。この機能を効果的に使うことによって、個々の楽器特有の微妙な表現が可能となります。

タッチトーンには、イニシャルタッチとアフタータッチの2種類があり、音群ごとに設定が可能です。



① INITIAL(イニシャルタッチ)

鍵盤をたたくスピードによって、音量と音質をコントロールします。

一般的に、鍵盤をより強く弾けばそれだけ音量は大きくなり、音質は明るくなります。

レベルを上げるとタッチによる変化が大きくなります。

② AFTER(アフタータッチ)

鍵盤を押えつける強さによって、立ち上がった後の音量と音質をコントロールします。一般的に、鍵盤をより強く押えることによって音量は大きくなり、音質は明るくなります。

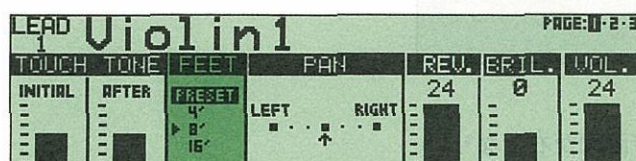
レベルを上げるとタッチによる変化が大きくなります。

Note: 一般的に、減衰系の音(たとえば、ピアノやビブラフォン)やパーカッションサウンドには、アフタータッチは機能しません。



(2) フィート

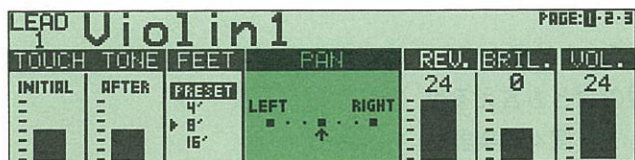
各音群ごとにオクターブの設定が可能で、1つの音色を幅広い音域で使うことができます。



PRESET(プリセット)が基本設定で、4'、8'、16'の3種類の設定が可能です。

(3)パン

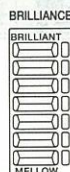
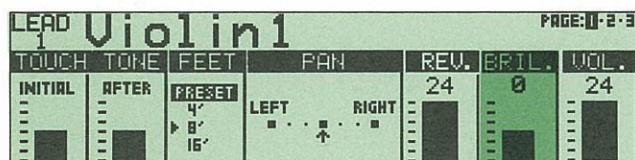
ステレオ出力によるそれぞれの音群ごとの楽器音の位置を決定します。



パンは、左右に7カ所の位置で設定が可能です。

(4)ブリリアンス

音群ごとに音質を変化させ、音色を明るくしたり暗くしたりすることができます。

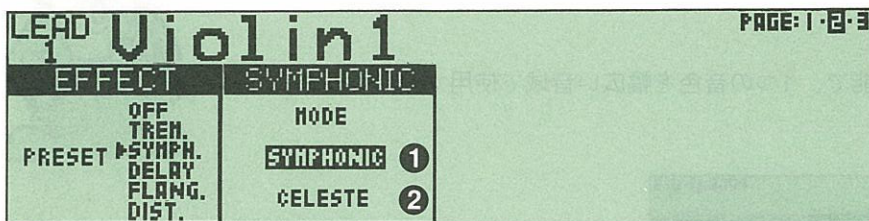


LCDのコントロールとパネル上のブリリアンスボリュームボタンは同じ設定になっています。レンジ：-3～+3

ボイスコンディションページ2

(5)シンフォニック/セレステ

シンフォニックは、音色に豊かで広がりのある効果を加えます。セレステは、シンフォニックより、ゆったりとした効果になります。音群ごとに設定可能です。



Note: トレモロの設定は、57ページをご参照ください。



SYMPH.を選択すると、シンフォニック/セレステのモード画面が右となりに表示され、シンフォニック/セレステ効果を加えることが可能になります。

① SYMPHONIC(シンフォニック)

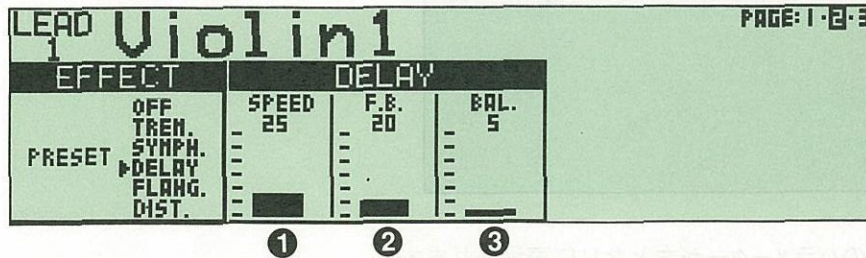
該当する音群にシンフォニックをかけます。

② CELESTE(セレステ)

該当する音群にセレステをかけます。

(6) デイレイ

デイレイとは、時間差をおいて繰り返し得られるエコー効果のことです。音群ごとに設定可能です。



DELAYを選択すると、デイレイのパラメーターが右と表示されます。

① SPEED(スピード)

繰り返し得られるエコーの速さを設定します。レンジ：0～100

② F.B.(FEEDBACK; フィードバック)

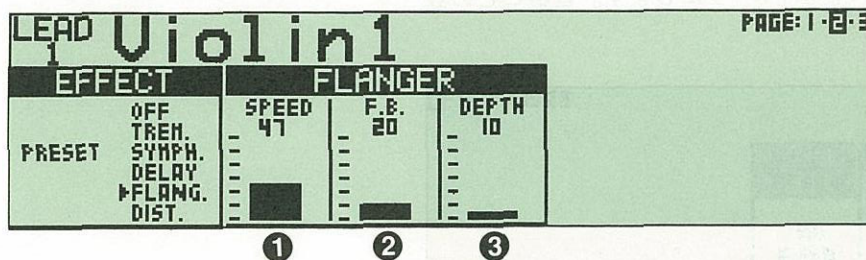
繰り返し得られるエコーの数を決定します。レンジ：0～100

③ BAL.(BALANCE; バランス)

演奏した音に対してのデイレイ効果の音量を設定します。高い設定にすればする程、デイレイの音量は大きくなります。レンジ：0～100

(7) フランジャー

フランジャーは、音にうねりを与え、回転しているような効果を演出します。音群ごとに設定可能です。



FLANG.を選択すると、フランジャーのパラメーターが右と表示されます。

① SPEED(スピード)

うねりの速さを設定します。レンジ：0～100

② F.B.(FEEDBACK; フィードバック)

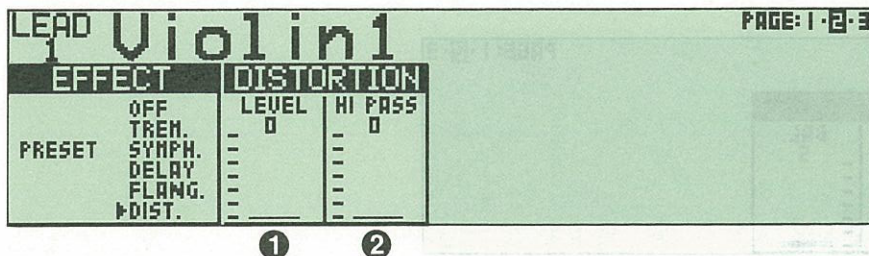
金属的な鋭さを加えたりして、効果を変化させます。レンジ：0～100

③ DEPTH(デプス)

フランジャー効果の深さを設定します。レンジ：0～100

(8) ディストーション

ディストーションは、音に歪みを与える効果です。音群ごとに設定可能です。



DIST.を選択すると、ディストーションのパラメーターが右と右に表示されます。

① LEVEL(レベル)

歪みのレベルを設定します。レンジ：0～100

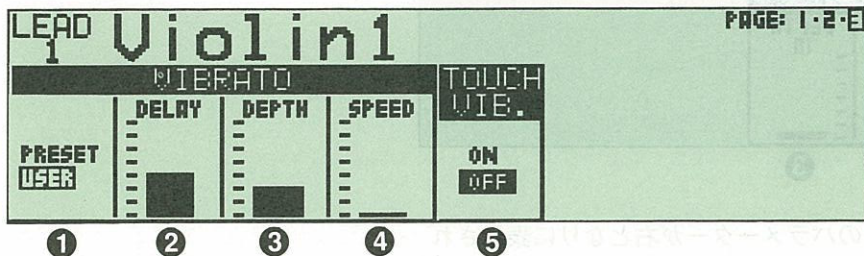
② HI PASS(ハイパス)

歪ませた音の音質を変えます。レンジ：0～100

ボイスコンディションページ3

(9) ビブラート

ビブラートは、音色をふるわせてマイルドなイメージにします。音群ごとの設定が可能です。



① PRESET/USER(プリセット/ユーザー)

PRESETが基本設定で、USER(ユーザー)を選択すると、ディスプレイ上にビブラートのパラメーターが現れ、自分でビブラートの設定ができるようになります。

② DELAY(ディレイ)

鍵盤を押してからビブラートがかかるまでの時間の長さを決定します。レベルを上げるとビブラートがかかるまでの時間が長くなります。

③ DEPTH(デプス)

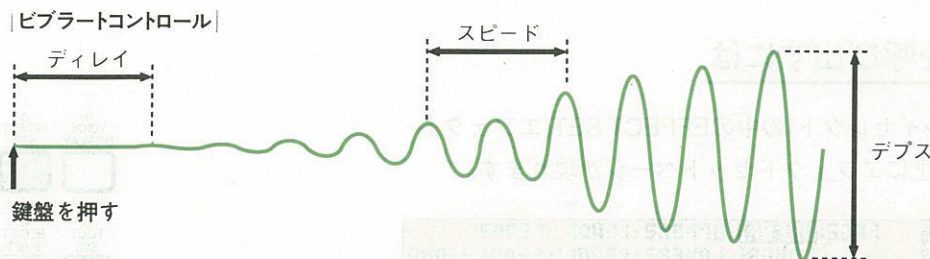
ビブラートの深さを設定します。レベルを上げるとより深い効果が得られます。

Note: プリセットの場合、ディスプレイ上にDELAY、DEPTH、SPEEDの各パラメーターは表示されません。



④ SPEED(スピード)

ビブラートの速さを設定します。

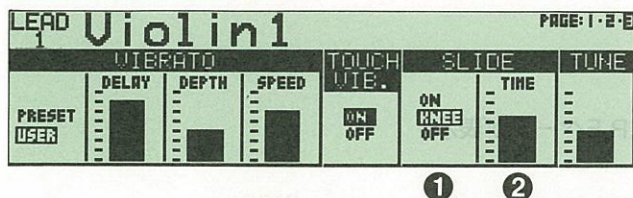


⑤ TOUCH VIB.(TOUCH VIBRATO; タッチビブラート)

タッチビブラートのON(オン)/OFF(オフ)スイッチです。タッチビブラートを使うことで、演奏中に鍵盤を強く押えることによって、ビブラートをかけることができます。鍵盤をさらに強く押えると、ビブラートはより深くなります。

(10) リードスライド

スライド（リードボイスのみ）は、レガート奏法の音色にポルタメント効果を加えます。各音群に、1 オクターブの範囲内でかけることができます。



① ON/KNEE/OFF(オン/ニー/オフ)

スライドのオン/オフ、そしてニーレバーでの設定を選択できます。

② TIME(タイム)

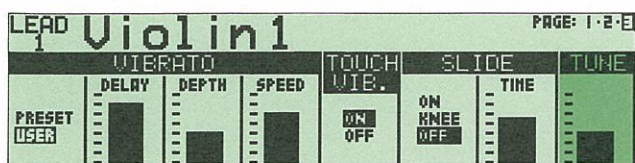
スライド（ポルタメント）の速さを設定します。レベルを上げること、スライド効果のスピードを遅くします。

Note: スライドは、ピッチベンドがかかっているときは機能しません。



(11) リードチューン

より豊かな楽器表現力を得るために、ほかの音色と比べてリードボイスのピッチを少し上げることで音の厚みを増します。レベルを上げるほど、ピッチは高くなります。

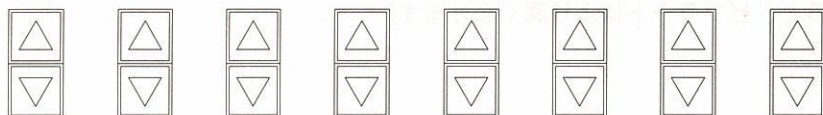
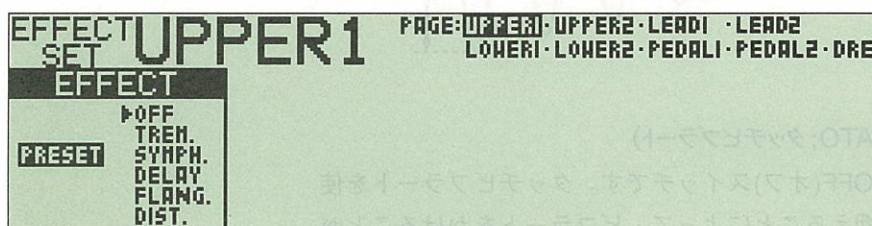


レンジ：0～14（最大15.68セント；レンジの1ステップあたり1.12セント）

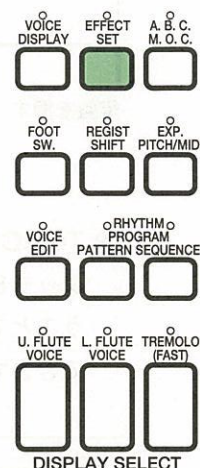
2 エフェクトセットページで設定するもの

エフェクトセットページを呼び出すには

DISPLAY SELECT(ディスプレイセレクト)の中のエFFECT SET(エフェクトセット)ボタンを押すと、LCD上にエフェクトセットページが現れます。

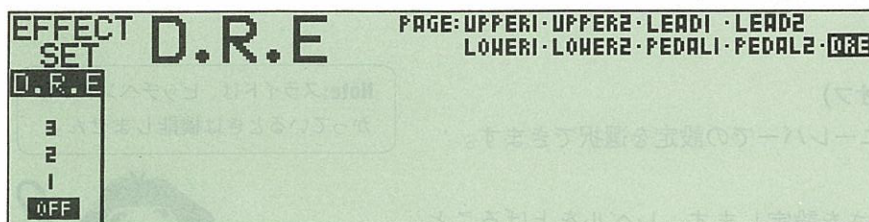


このページは、最後のページのD.R.E(ダイナミックレンジエンハンサー)を除いて、ボイスコンディションの2ページめと共通の内容になっています。ここでは、D.R.Eについて説明します。



(12) ダイナミックレンジエンハンサー

ページボタンを使用して、DREを選択すると、画面上にD.R.Eページが表示されます。



D.R.E(ダイナミックレンジエンハンサー)

ダイナミックレンジエンハンサーは、音にはっきりとしたインパクトを与える効果です。音が大きくなればなる程、特に高音域において、音質がよりきらびやかになります。D.R.Eは、リズムを除いた全音色に、同時に等しくかかる効果です。設定の1、2、3は、D.R.Eのかかり具合を決定します。

3 パネルボタンで設定するもの

リバーブやサステイン、そしてトレモロ／コーラスは、パネル上のボタンを使って、それぞれのページをLCDディスプレイ上に呼び出して、設定します。

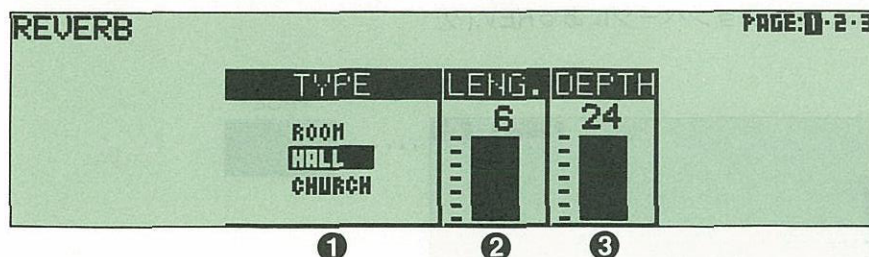
(13)リバーブ

リバーブによって、広い部屋やコンサートホールで演奏しているような、音が響きわたる効果を得ることができます。リバーブを楽器全体に同時にかけることや、それぞれの音群ごとやリズムごとに、さらには打楽器音ごとに別々にかけることも可能です。

リバーブを設定するには

パネル上の左端にあるリバーブボリュームボタンを押します。LCD上には自動的にリバーブディスプレイが現れます。

リバーブディスプレイ【ページ1】



① TYPE(タイプ)

リバーブの種類を選択します。ROOM(ルーム)、HALL(ホール)、CHURCH(チャーチ)の3種類があります。リバーブの深さはルームが浅く、チャーチが一番深い設定になっています。

② LENG.(LENGTH; レングス)

リバーブの長さを設定します。レベルを上げるとより長い設定となります。レンジ：0～6

③ DEPTH(デプス)

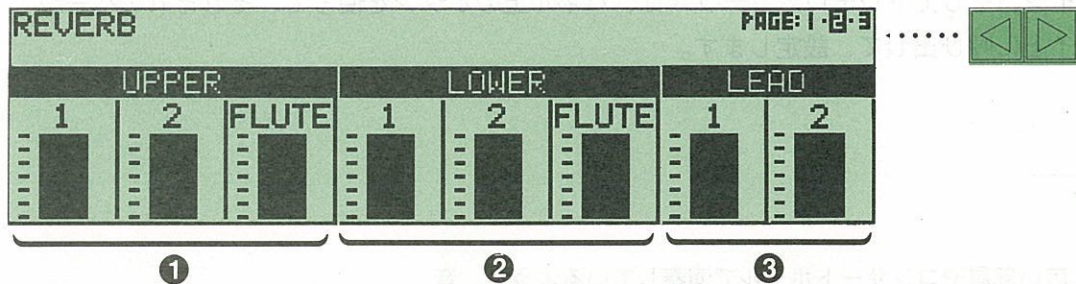
リバーブの深さを調節します。パネル面のリバーブボリュームは、このデプスの程度を表示しているものです。パネル面では7段階の調節ができますが、このデプスを使うことでさらにきめ細かな設定が可能です。レンジ：0～24

Note: デプスの設定が0もしくはそれに近い状態の場合は、以下に述べるグループ別の設定でのリバーブ効果は得られません。



リバーブディスプレイ【ページ2】

このページでは、各音群ごとにリバーブのかかる量を設定できます。それぞれの音群のコンディション1ページにあるREV.(リバーブ)と共通になっています。



① UPPER1, 2, FLUTE(アップパーキーボードボイス1、2; アップパーフルートボイス)

上鍵盤の音群のリバーブのボリュームを設定します。レンジ：0～24

② LOWER1, 2, FLUTE(ロワーキーボードボイス1、2; ロワーフルートボイス)

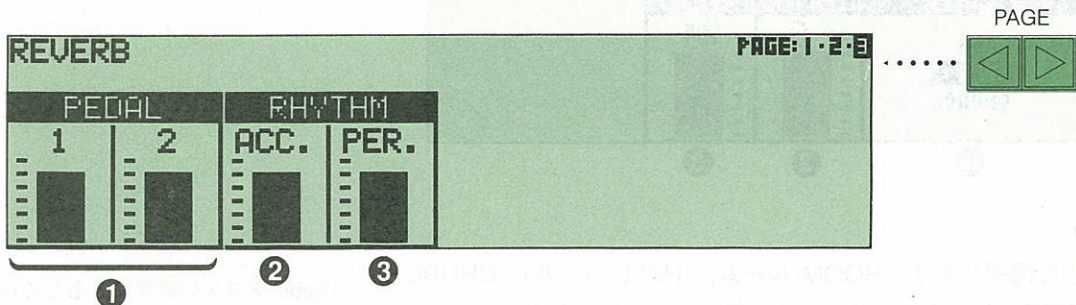
下鍵盤の音群のリバーブのボリュームを設定します。レンジ：0～24

③ LEAD1, 2(リードボイス)

リードボイスにかかるリバーブのボリュームを設定します。レンジ：0～24

リバーブディスプレイ【ページ3】

このページでは、各音群／セクションごとにリバーブのかかる量を設定できます。それぞれの音群／セクションのコンディションページにあるREV.(リバーブ)と共通になっています。



① PEDAL1, 2(ペダルボイス1、2)

ペダルボイスにかかるリバーブのボリュームを設定します。レンジ：0～24

② RHYTHM ACC.(ACCOMPANIMENT; アカンパニメント)

アカンパニメントにかかるリバーブのボリュームを設定します。レンジ：0～24

(アカンパニメントについては、70ページをご参照ください。)

③ RHYTHM PER.(PERCUSSION; パーカッション)

リズムや各打楽器にかかるリバーブのボリュームを設定します。レンジ：0～24

(リズムについては63ページをご参照ください。)

(14) サステイン

サステインは、鍵盤から指をはなした後に音に余韻を与える効果です。アップー／ロワー／ペダルの鍵盤ごとに、オン／オフしたりサステインの長さを調節することができます。

サステインを設定するには

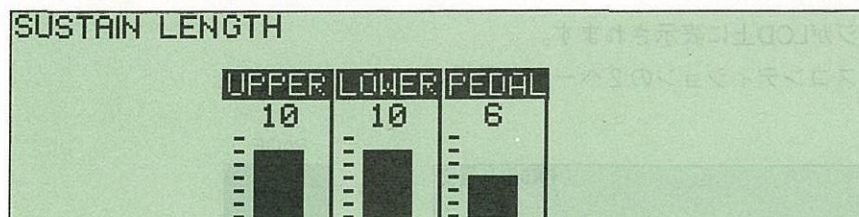
パネル上の左端のサステインボタンを押して、LCDディスプレイにSUSTAIN LENGTH(サステインレングス)のページを呼び出します。

サステインボタンを押すと、ボタンの真上のLEDが点灯しサステインがオンの状態であることを示します。もう一度押すことで、サステインはオフになり、VOICE DISPLAYの表示に戻ります。

Note: サステインはリードボイスにはかかりません。

Note: アップー／ロワー鍵盤では、ニーレバーが入った状態の場合は、ニーレバー機能を使ってサステインをかけることができます。(144ページをご参照ください。)

サステインレングスディスプレイ



Note: サステインボタンはオン／オフスイッチです。演奏前に、オンの状態になっているか必ず確認しましょう。

UPPER/LOWER/PEDAL(アップー／ロワー／ペダル)

それぞれが、個々の鍵盤にかかるサステインの長さを表します。各サステインの真下にあるデータコントロールボタンで長さを調節します。レンジ：0～12

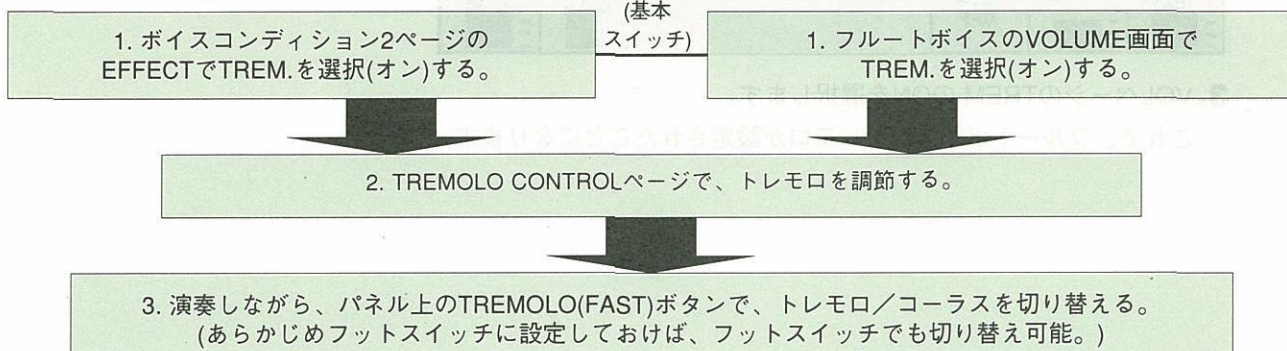
(15) トレモロ／コーラス

トレモロは、スピーカーを回転させて得られるような豊かで広がりのある効果を生じさせます。従来のロータリースピーカーと同じように、回転のスピードを切り変えることができ、速さの微調整も可能です。パネル上のトレモロボタンや、左のフットスイッチを使ったりして、演奏中もリアルタイムで効果が得られます。

トレモロ設定の手順

ボイスメニューの音色

フルートボイス(オルガンボイス)



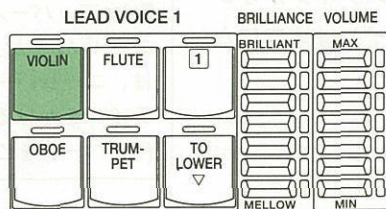
(1)トレモロを設定するには

トレモロを使うためには、パネル面のTREMOLO(トレモロ)スイッチをオンにするだけでは作動しません。まず最初に個々の音群ごとにエフェクトの中からトレモロを選択します。トレモロもほかのエフェクトと同じように、音群ごとに設定できます。

トレモロを選択する

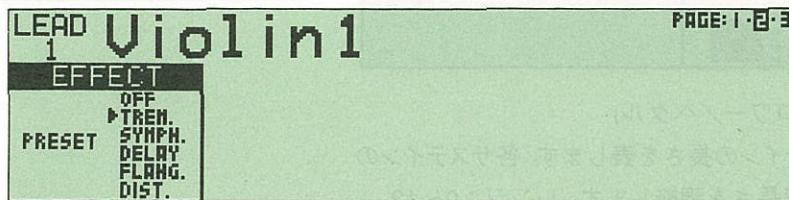
■パネル音色(リード/アッパー/ロー/ペダル)の場合

1. パネル上のトレモロ効果を使いたい音色のボタンを2度押します。



ボイスコンディションのページがLCD上に表示されます。

2. ページボタンを使って、ボイスコンディションの2ページを選択します。



3. LCDディスプレイのEFFECTの中から、TREM.を選択します。

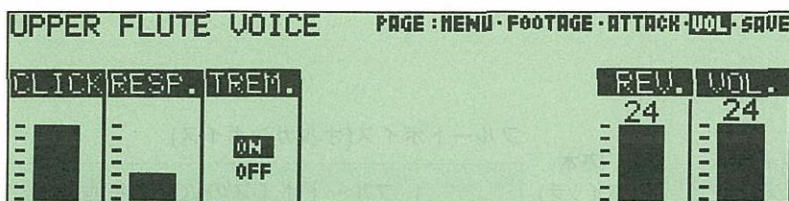
これで、その音色の属する音群に、トレモロが設定されたことになります。

■フルートボイスの場合

1. パネル上のDISPLAY SELECTセクションのU./L. FLUTE VOICEボタンを押します。

フルートボイスページがLCD上に表示されます。

2. ページボタンを使ってVOLのページを選択します。



3. VOLページのTREM.のONを選択します。

これで、フルートボイスにトレモロが設定されたことになります。

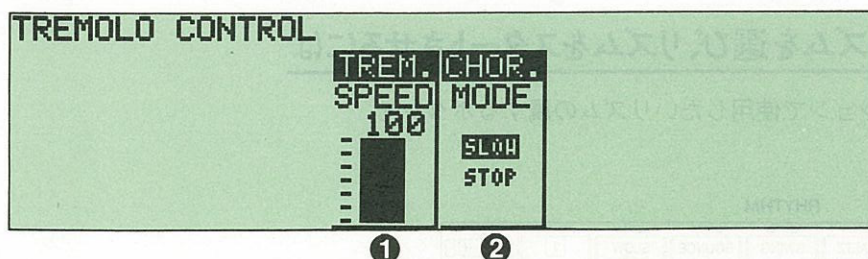
(2) トレモロを調節するには

このステップでのトレモロの状態の設定は、エレキトーン全体にかかることになります。

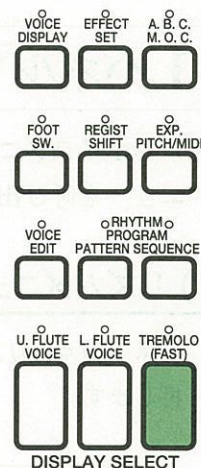
トレモロを調節し具体的な設定をする

パネル上のDISPLAY SELECTセクションのTREMOLO(FAST)ボタンを押します。

LCD上にTREMOLO CONTROL(トレモロコントロール)ページが表示されます。



ボタンの上のランプが点灯し、トレモロがオンの状態になったことを示します。このボタンを使って、演奏中にトレモロのオン/オフの切り替えをします。また、このボタンは、トレモロとコーラスの切り替えスイッチという役割も果たします。



① TREM. SPEED(TREMOLO SPEED;トレモロスピード)

トレモロの回転するスピードを調節します。レンジ：0～100

② CHOR. MODE(CHORUS MODE;コーラスモード)

パネル上のTREMOLO(FAST)ボタンがオフの状態でのモードのSLOW(スロー)を選択すると、コーラスがかかります。つまり、パネル上のTREMOLO(FAST)ボタンは、トレモロとコーラスの切り替えスイッチとなるわけです。



(3) 演奏しながらトレモロを使う

これで、トレモロをあらかじめ設定し、演奏しながら簡単にオン/オフ切り替えが可能になりました。

DISPLAY SELECTセクションの中のTREMOLO(FAST)ボタンを使ったり、フットスイッチを使って、トレモロ効果をコントロールしてください。

(トレモロは、あらかじめ設定しておけば、フットスイッチでもコントロールできます。詳しくは、144ページのフットスイッチセクションをご参照ください。)

Note: グライドやピッチベンドについては、それぞれフットスイッチ(143ページ)、セカンドエクスプレッションペダル(146ページ)をご参照ください。